

令和6年度第4回
モニターアンケート結果報告書

板橋区地域保健福祉計画について

板橋区政策経営部広聴広報課

— 目 次 —

ページ

アンケート概要	1
あなたご自身のことについて	
問1	あなたの性別をお答えください。2
問2	あなたの年齢をお答えください。2
問3	あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。3
問4	あなたの国籍をお答えください。3
問5	あなたのお住まいの地域(町丁目まで)をお答えください。4
問6	あなたは板橋区に何年住んでいますか。4
問7	お住まいは次のどれにあたりますか。5
問8	あなたの現在の就労・就学等の状況はどれになりますか。5
問9	あなたの現在の世帯年収についてお答えください。6
人とのつながりについて	
問10	あなたは普段、離れて暮らす家族や友人とどれくらいコミュニケーションを取っていますか。6～7
問10-1	あなたと同居している人たちとのコミュニケーションについて、直接話す頻度をお答えください。7
問11	あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。8
相談に関する状況について	
問12	あなたは悩みや困りごとをどなたに相談しますか。(複数回答可) 8
問13	あなたは、もし現在の生活について相談をしたらどのような課題を相談したいと思いますか。(複数回答可) 9
問14	あなたは、生活における困りごとに関して、これまで行政の相談窓口 に相談したことはありますか。10
問14-1	【問14で「1 ある」を回答した方へ】行政の窓口で相談をした際 に、どのようなことに困りましたか。(複数回答可) 10
問14-2	【問14で「2 ない」を回答した方へ】行政の相談窓口 に相談したことがないのはなぜですか。(複数回答可) 11
問15	あなたは、困りごとに対する相談支援体制を充実させるには、どのよ うなことが必要だと思いますか。(複数回答可) 12
問16	あなたは、現在の生活をどのように感じていますか。13

地域づくりについて		
問17	あなたは現在、ご近所とどのような関わり方をしていますか。	13
問18	あなたが望ましいと思う、ご近所との関わり方はどれですか。	14
問19	あなたは、地域とのつながりが必要だと思いますか。	14
問19-1	【問19で「1 とても必要だと思う」、「2 ある程度必要だと思う」を回答した方へ】問19-1 あなたは住民同士が自主的に支えあったり、助けあったりするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答可)	15
問20	あなたは過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(複数回答可)	16
問20-1	【問20で「いずれにも参加していない」以外と回答した方へ】活動を行う上での課題や負担に感じていることはどれですか。(複数回答可)	17
問20-2	【問20で「いずれにも参加していない」と回答した方へ】あなたが参加しなかった理由はなんですか。(複数回答可)	17
問21	今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(複数回答可)	18
問22	あなたが活動へ参加するに当たって求めることは何ですか。(複数回答可)	19
問23	今後、地域活動やボランティア活動を活性化していくためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)	20
問24	板橋区の公共施設には、気軽に立ち寄れる休憩スペースが充実していると思いますか。	21
問25	あなたは、地域に気軽に立ち寄れる居場所があると思いますか。	21
問26	地域の交流の場として、どのような場所があると良いと思いますか。	22
日常生活の課題について		
問27	あなたは、日常どのくらい外出していますか。(通勤・通学を含む)	22
問28	地域や日常生活における優先課題だと思うことは何ですか。(複数回答可)	23～24
問29	困りごとや悩みの解決において必要だと思うことは何ですか。(複数回答可)	24
問30	板橋区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいますが、あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。(複数回答可)	25
ソーシャル・インクルージョン*（社会的包摂）について		
問31	あなたの周りに社会的に不利な立場にいる、または孤立していたり排除されている人はいますか。(社会的排除)	26
問32	ソーシャル・インクルージョンを推進するために、社会的排除の状態にある方への支援としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答可)	27

ひきこもりについて		
問33	あなたの世帯に、ひきこもり状態*にある（あった）方はいますか。	28
問33-1	【問33で「1 いる」、「2 いた」を回答した方へ】 問33-1 ひきこもり状態にある方について、ひきこもりの状態を変えるために、必要であったり、役に立つと思うものをお答えください。（複数回答可）	29
外国人との共生について		
問34	日本人の区民と外国人の区民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、行政に求めることをお答えください。（複数回答可）	30～ 31
再発防止に向けた取組みについて		
問35	あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。	31
問36	あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。	31
問37	罪を犯した人が、出所後、再び罪を犯さないようにするために、区はどのような取組みを行っていくことが必要だと思いますか。（複数回答可）	32
行政の相談先や福祉等の関連用語について		
問38	あなたは、下記に示す板橋区の相談支援窓口や、福祉・保健に関連のある用語を知っていますか。	33
問39	最後に、いままでお伺いしたことの他に、地域保健福祉に関するご意見・ご要望・ご感想などがありましたらお聞かせください。	34～ 36

※ n(number of cases)は、その設問に対する回答者の総数を示しています。

質問によっては複数の回答を得たものがあります。

また、質問によっては、回答がなかった、もしくは、択一選択の質問に複数の回答があったため、総数について整合がとれていない部分があります。

1 アンケート概要

板橋区地域保健福祉計画について

2 調査目的

板橋区では平成28年度から「板橋区地域保健福祉計画 地域でつながるいたばし保健福祉プラン2025」に基づき、区の保健福祉施策の総合的な推進を図っており、現在第3期実施計画である「実施計画2025（令和4年度～令和7年度）」により各事業を進めているところです。

このたび、「板橋区地域保健福祉計画 地域でつながるいたばし保健福祉プラン2025」が令和7年度に終了することに伴い、次期地域保健福祉計画を策定することになりました。そのため、区民の現況やニーズを把握し、計画の策定における基礎資料とするため、アンケート調査を実施いたしました。

3 調査対象

- (1) いたばし・タウンモニター 51名
- (2) いたばし・eモニター 188名

4 調査方法

- (1) いたばし・タウンモニター 郵送またはインターネット回答
- (2) いたばし・eモニター インターネット回答

5 調査期間

令和6年7月24日（水）から令和6年8月7日（水）まで

6 アンケート作成部署

生活支援課

7 回答結果（回答率）

	回答数	回答率
タウンモニター	35人	68.6%
eモニター	82人	43.6%
計	117人	49.0%

8 その他

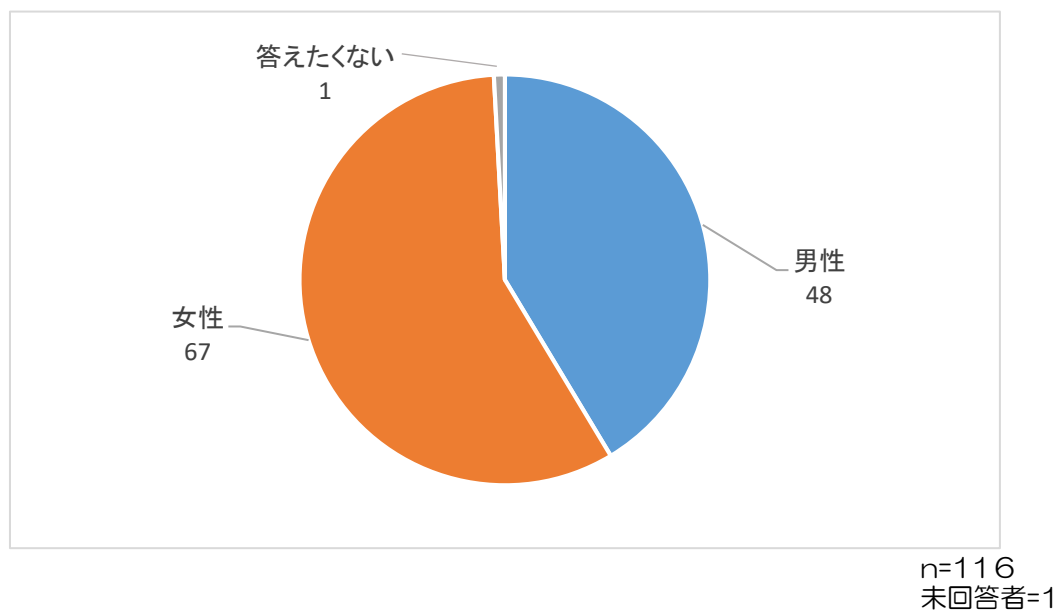
紙面の関係上、要約・省略をしているものがあります。

また、ご意見・ご要望等で、アンケートに関連のない内容等については、割愛いたしました。

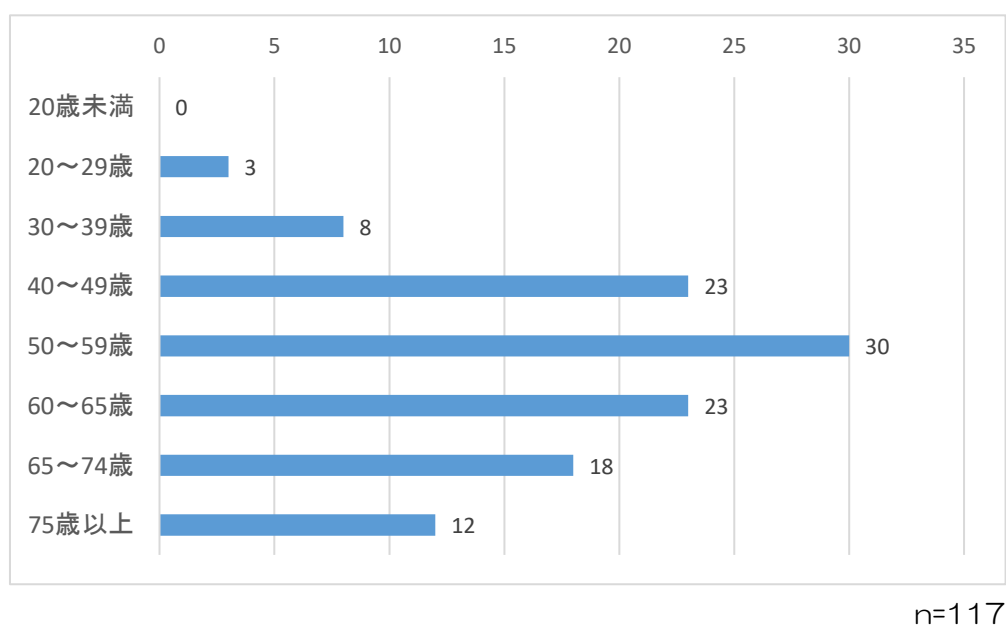
回答の比率（％）は、小数点第二位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100%にならない場合があります。

あなたご自身のことについて

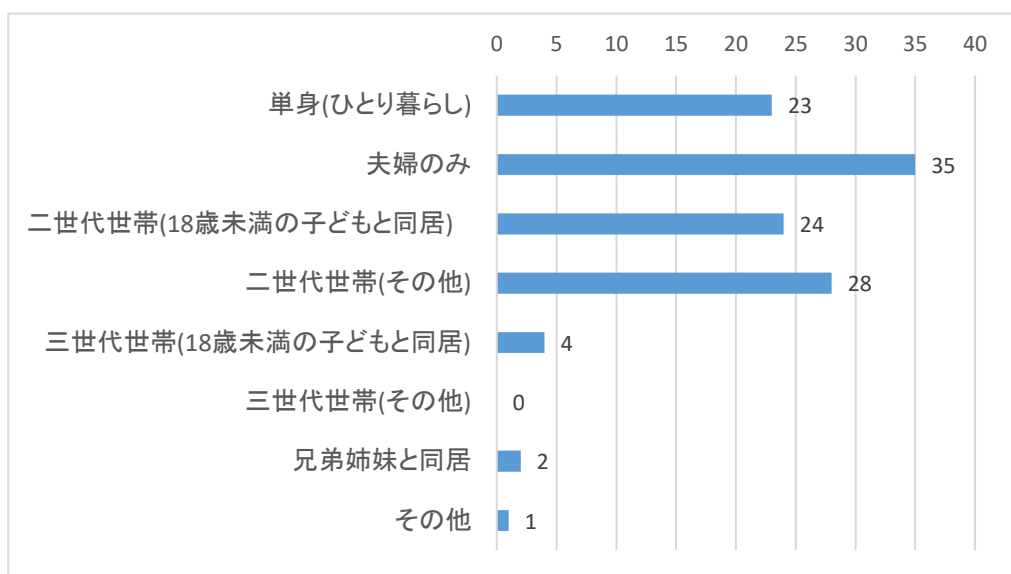
問1 あなたの性別をお答えください。



問2 あなたの年齢をお答えください。



問3 あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。

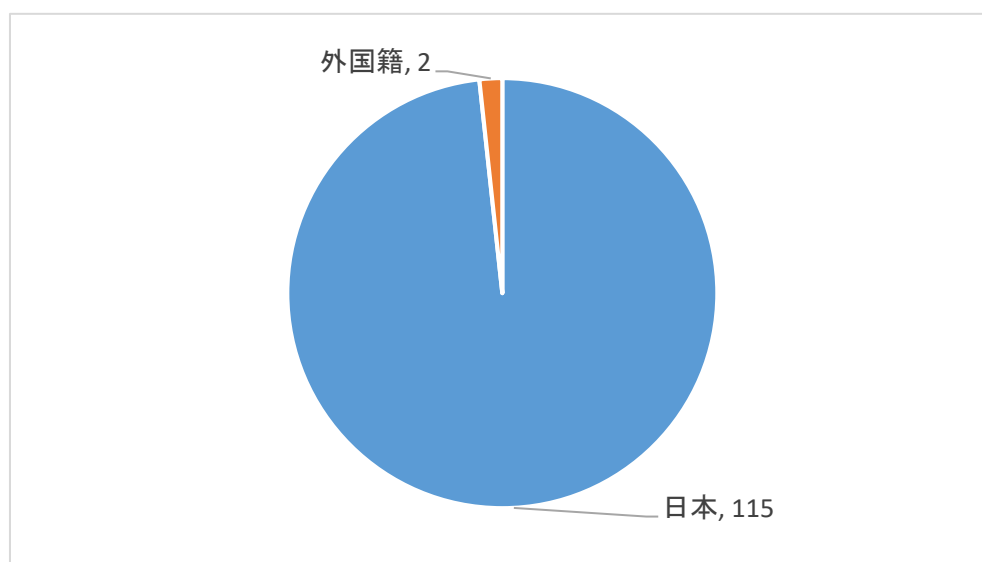


n=117

《その他の回答》

- ・核家族世帯 母(自分)と18歳以上の子供と同居

問4 あなたの国籍をお答えください。



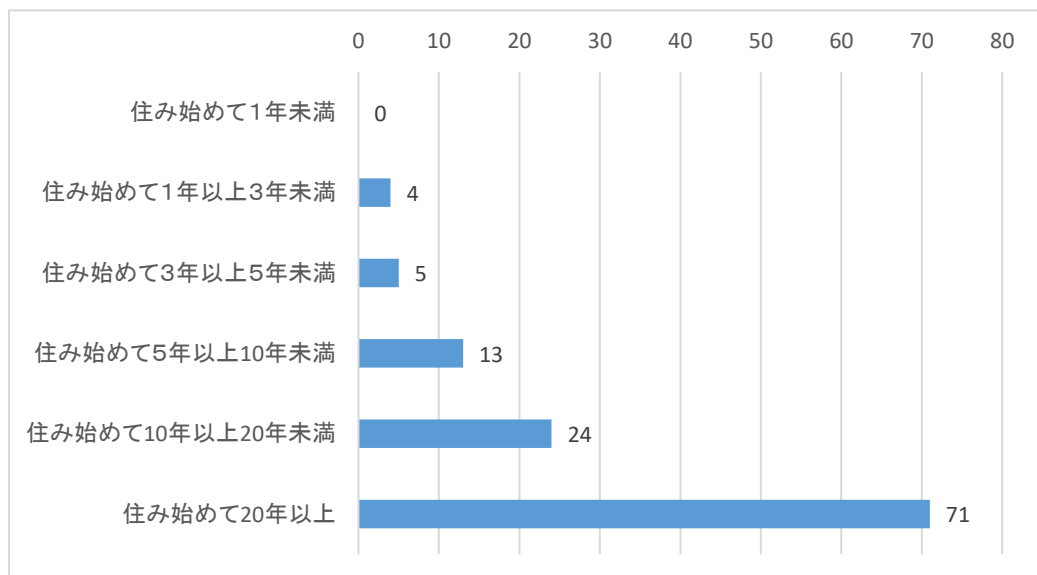
n=117

問5 あなたのお住まいの地域（町丁目まで）をお答えください。

赤塚一丁目	1	大山西町	2	高島平八丁目	2	東坂下一丁目	1
赤塚三丁目	1	大山東町	3	高島平九丁目	1	東山町	1
赤塚四丁目	1	加賀二丁目	2	常盤台一丁目	4	富士見町	1
赤塚五丁目	2	上板橋一丁目	1	常盤台二丁目	1	双葉町	1
赤塚六丁目	2	上板橋二丁目	1	常盤台四丁目	1	舟渡二丁目	1
赤塚(丁目記載なし)	1	小茂根一丁目	1	徳丸二丁目	2	本町	3
赤塚新町二丁目	1	幸町	2	徳丸六丁目	1	前野町一丁目	1
赤塚新町三丁目	3	栄町	2	仲宿	7	前野町二丁目	1
小豆沢二丁目	1	坂下二丁目	2	中台一丁目	1	前野町三丁目	1
小豆沢(丁目記載なし)	1	坂下三丁目	1	中台三丁目	2	前野町四丁目	1
板橋一丁目	1	桜川二丁目	1	中丸町	2	前野町六丁目	2
板橋二丁目	1	清水町	1	成増三丁目	1	三園一丁目	2
稻荷台	1	志村一丁目	4	西台二丁目	1	南町	1
大原町	2	志村二丁目	1	西台三丁目	1	南常盤台二丁目	2
大谷口一丁目	1	高島平一丁目	2	西台四丁目	1	向原一丁目	2
大谷口上町	1	高島平二丁目	2	蓮沼町	3	向原(丁目記載なし)	1
大山金井町	1	高島平三丁目	3	蓮根二丁目	4	弥生町	1
大山町	2	高島平七丁目	1	蓮根三丁目	2	若木一丁目	1

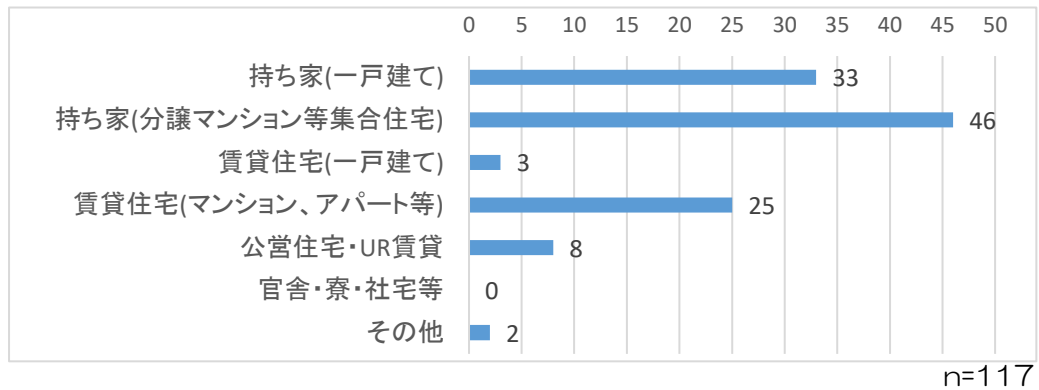
n=117

問6 あなたは板橋区に何年住んでいますか。



n=117

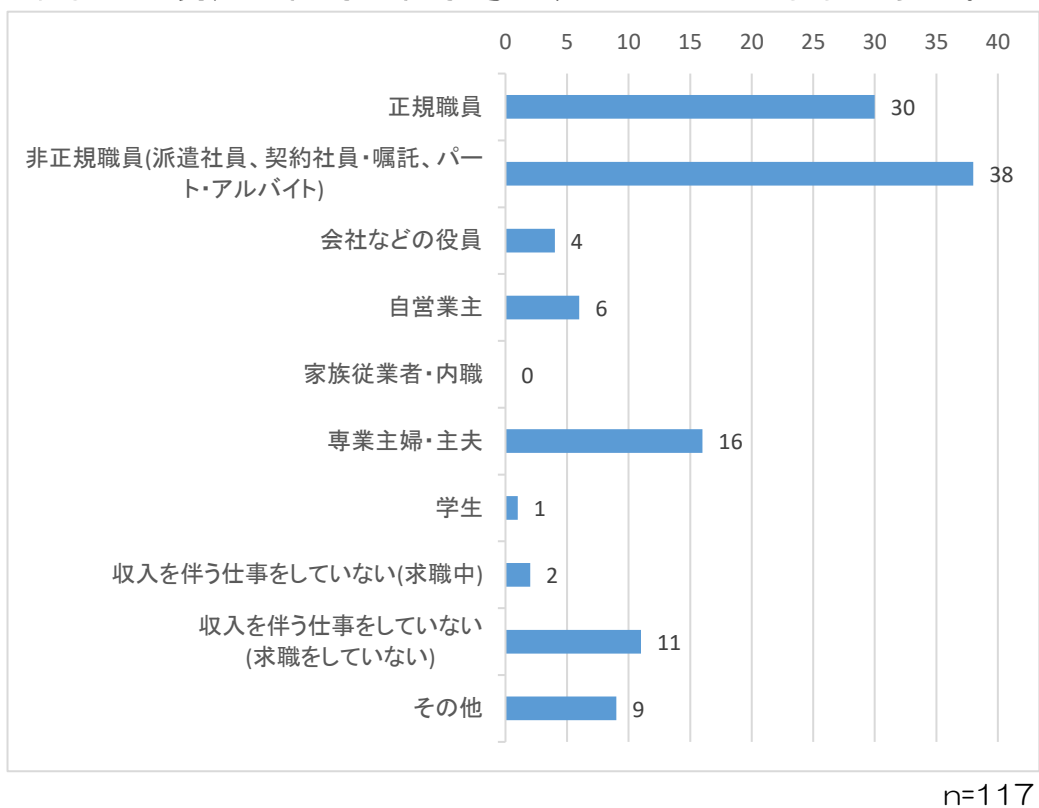
問7 お住まいは次のどれにあたりますか。



《その他の回答》

- ・義理の父が所有している戸建て

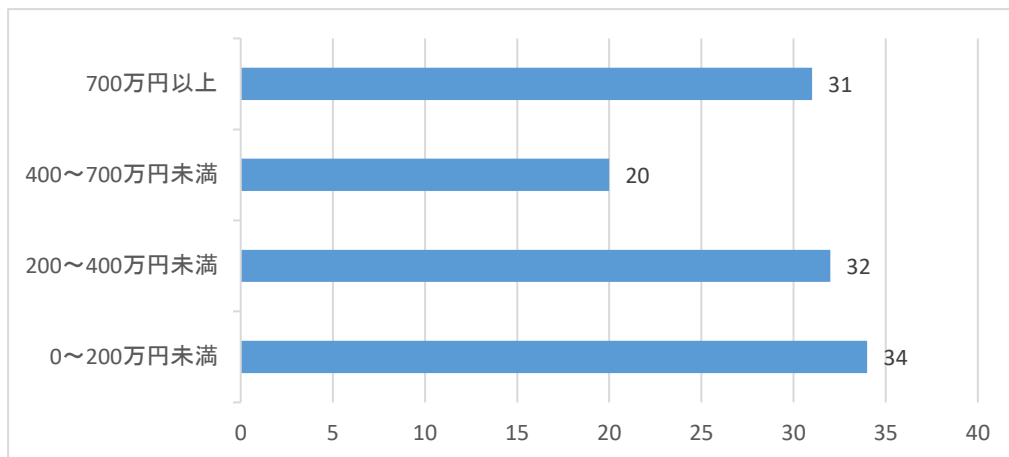
問8 あなたの現在の就労・就学等の状況はどれになりますか。



《その他の回答》

- ・コンサルタント
- ・大学職員
- ・不動産収入
- ・年金収入（2件）
- ・シルバー会員
- ・只今、休職中
- ・無職
- ・障がい者なので、事実的にはなされていない

問9 あなたの現在の世帯年収についてお答えください。



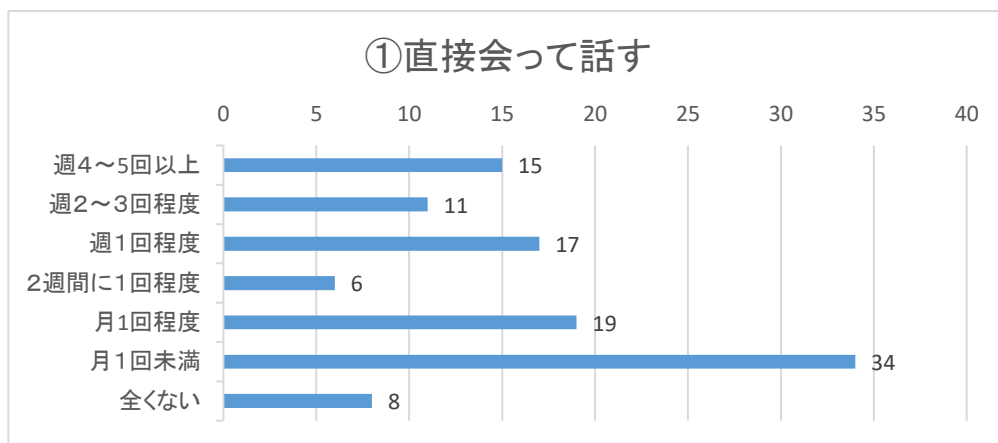
n=117

人とのつながりについて

問10 あなたは普段、離れて暮らす家族や友人とどれくらいコミュニケーションを取っていますか。

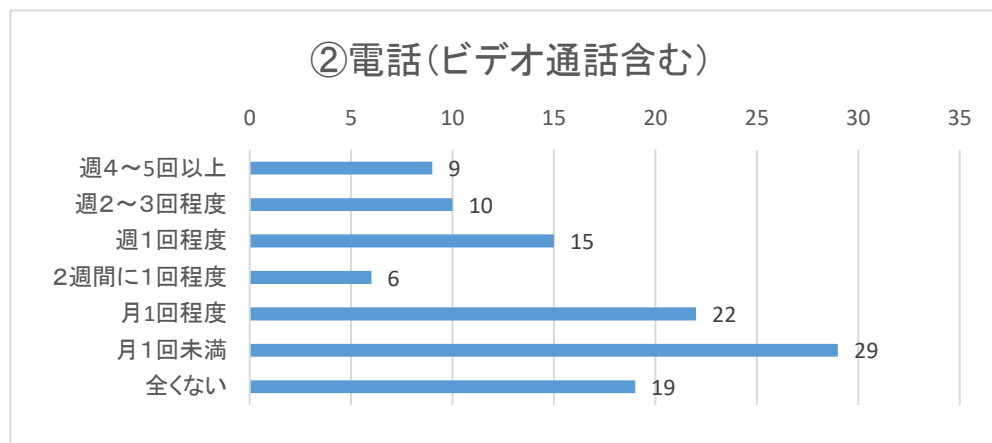
①～③ごとにそれぞれお答えください。

※仕事や学校、近所での付き合い、SNS（X、Facebook、Instagram など）上での交流など、場所や手段は問いません。



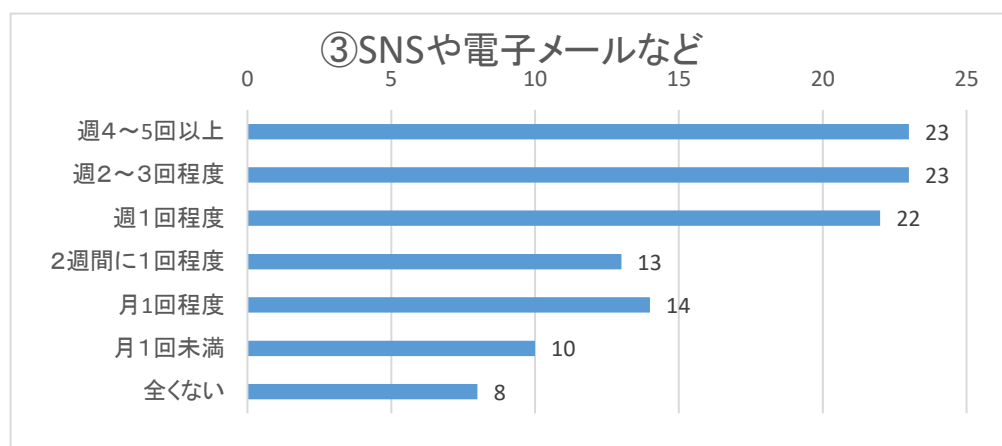
n=110
未回答者=7

「月1回未満」と回答した人が34人（30.9%）で最も多かった。



n=110
未回答者=7

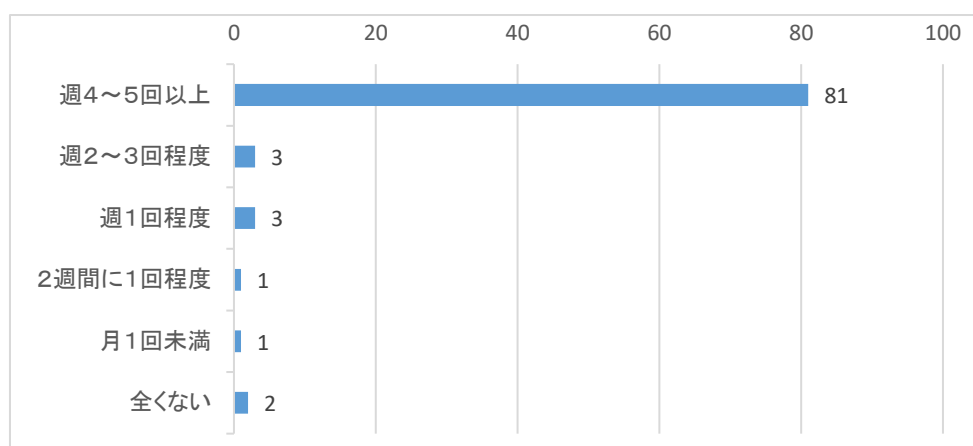
「月1回未満」と回答した人が29人（26.4%）で最も多かった。



n=113
未回答者=4

「週4～5回以上」・「週2～3回程度」と回答した人が23人（20.4%）で最も多かった。

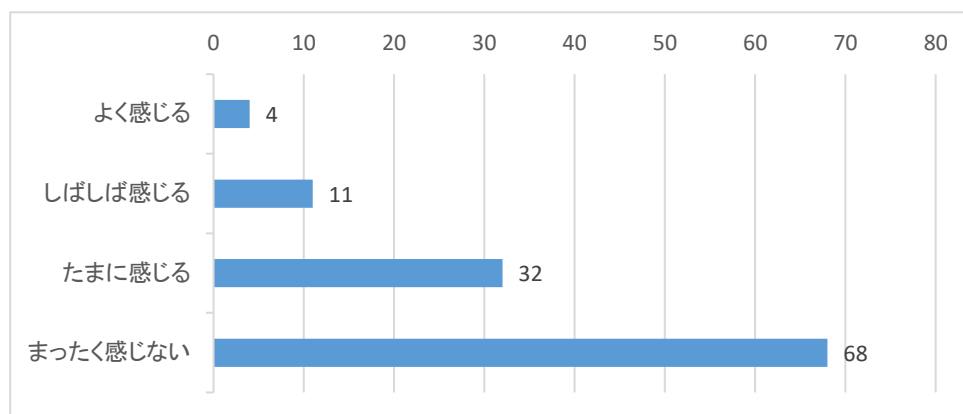
問10-1 あなたと同居している人たちとのコミュニケーションについて、直接話す頻度をお答えください。



n=91

「週4～5回以上」と回答した人が81人（89.0%）で最も多かった。

問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

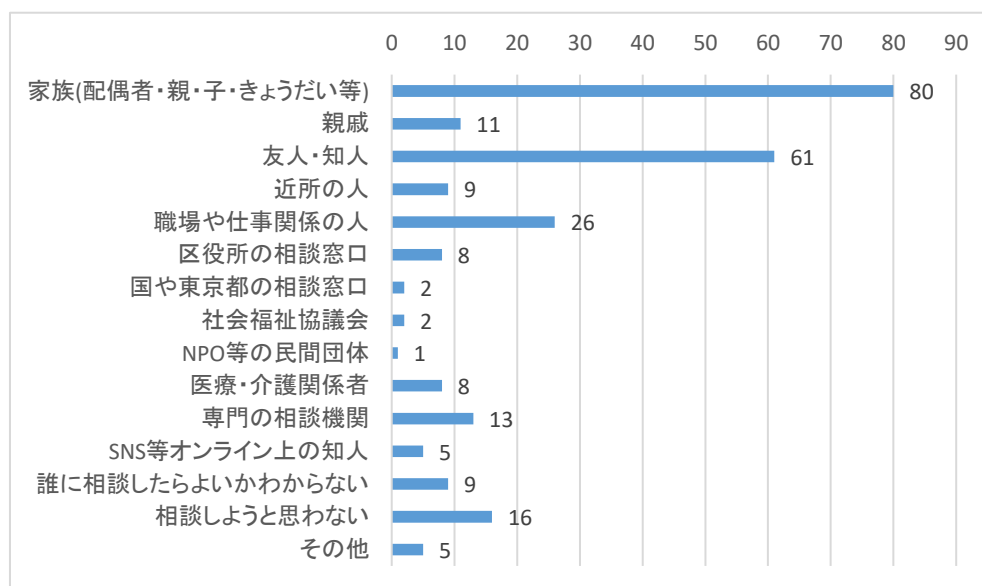


n=115
未回答者=2

「まったく感じない」と回答した人が68人（59.1%）で最も多かった。

相談に関する状況について

問12 あなたは悩みや困りごとをどなたに相談しますか。（複数回答可）



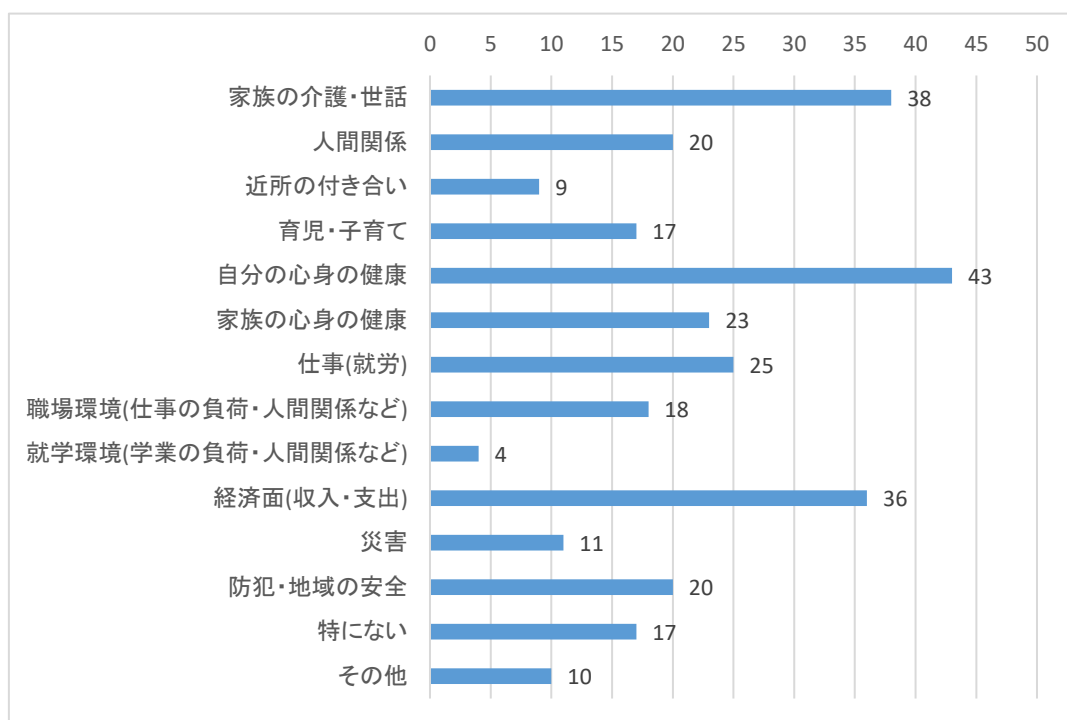
n=116
未回答者=1

「家族(配偶者・親・子・きょうだい等)」と回答した人が80人（68.4%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・区議会議員
- ・保育園
- ・長年の主治医

問13 あなたは、もし現在の生活について相談をしたらどのような課題を相談したいと思いますか。（複数回答可）



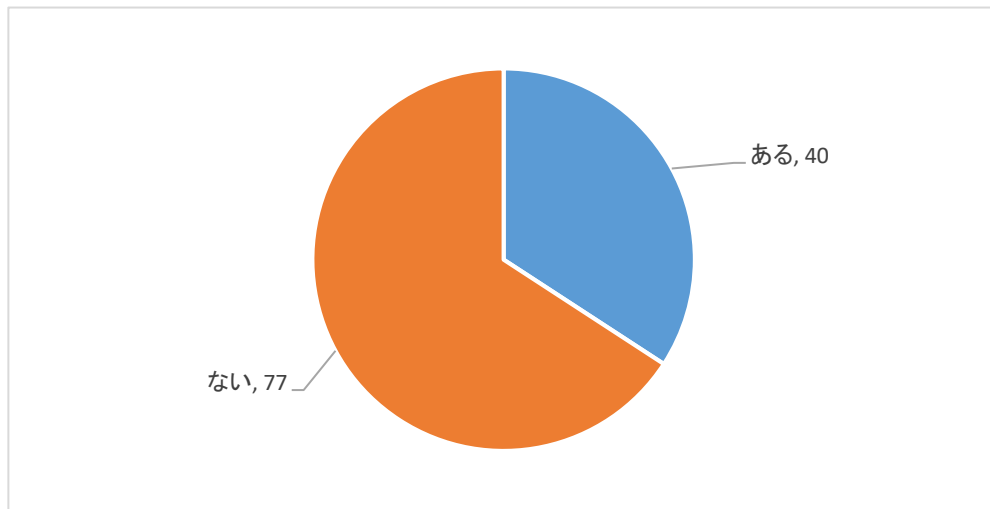
n=117

「自分の心身の健康」と回答した人が43人（36.8%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・相続や訴訟などの法律関連
- ・持病
- ・人生
- ・一人暮らしが難しくなってくる時期への向き合い方
- ・土地建物
- ・家のメンテナンス
- ・町内会の諸事
- ・人間関係
- ・自身の老後

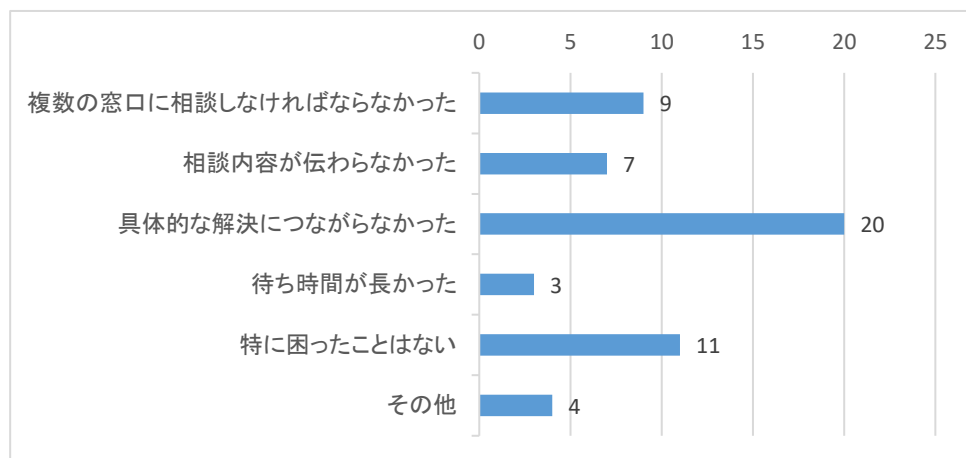
問14 あなたは、生活における困りごとに関して、これまで行政の相談窓口で相談したことはありますか。



n=117

「ない」と回答した人が77人（65.8%）で最も多かった。

問14-1 【問14で「ある」を回答した方へ】
行政の窓口で相談をした際に、どのようなことに困りましたか。
（複数回答可）



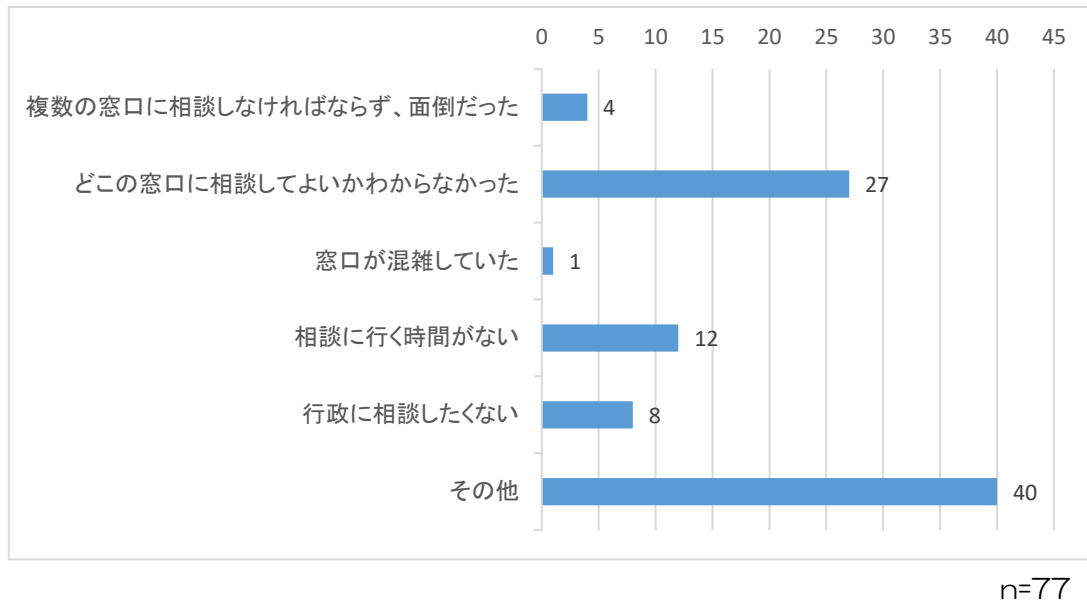
n=40

「具体的な回答につながらなかった」と回答した人が20人（50.0%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・相談窓口で相談したところ、時間に制限があって深いところまで話が進まなかった。
- ・行政ではなく、社協に相談したが、ばかばかしい回答しか得られず。高齢者ばかりをターゲットにし、中年は射程外のように。
- ・まず、そもそも知識がないので、どんな事柄を相談して良いのかが分からず、どの窓口に行けばよいのかも分からなかった。

問14-2 【問14で「ない」を回答した方へ】
行政の相談窓口相談したことがないのはなぜですか。（複数回答可）

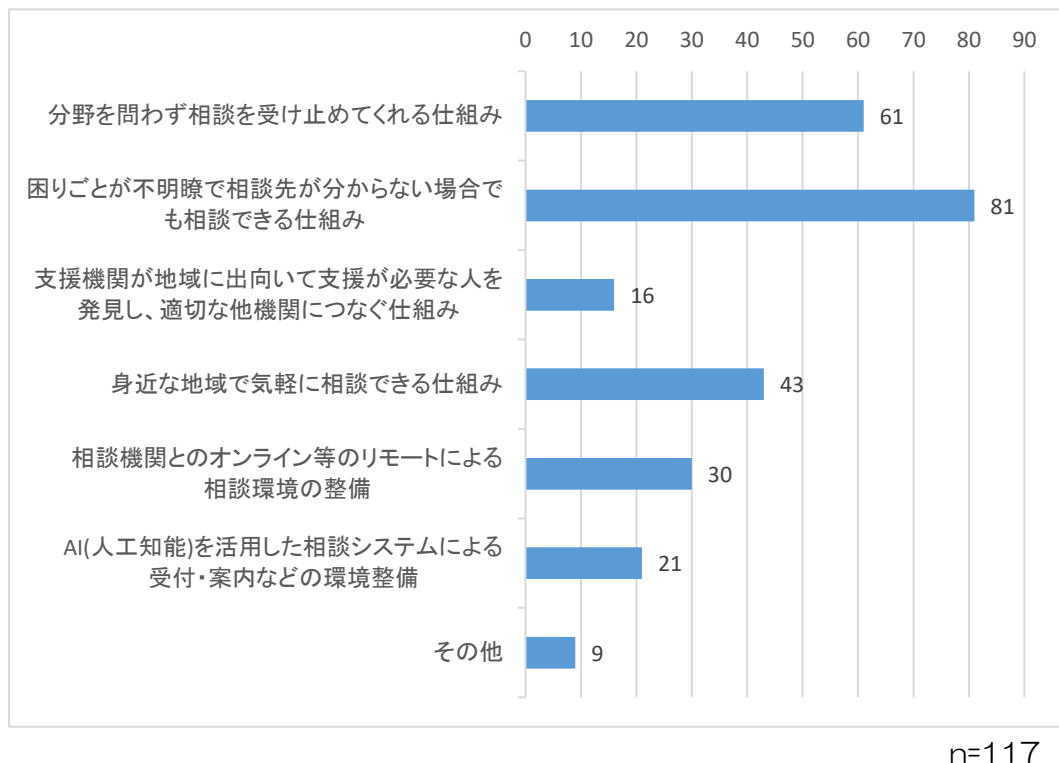


「その他」と回答した人が40人（51.9%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・行政の窓口相談することがない。（27件）
- ・悩み事、困りごとを自分で解決できている。（2件）
- ・病気で声が出せなくなったため。
- ・行政的な立場で臨むだろうと思われるから。今まで何人かの行政の方とお話をしてきたが、心通える方は、そうは居なく、今現在の行政職の方々は日頃の言動から、期待出来ないから。
- ・出向いてまで相談に行くことは、一人暮らしにとっては健康上のことがあればなおさら思うようにいかない。
- ・なにを相談したらいいかわからない。
- ・家族や友人に相談する程度の事だったから。
- ・行政に相談するほどの内容がないです。イメージとして、自分自身による悩みなどは自分で書籍や調べることで何とか解決します。他のところから来た問題は、例えば近所スーパーに衛生問題があった、金融詐欺に遭ったなどは行政を含め、相談すべきだと理解していました。
- ・行政が如何に頑張っているかを見て来ているし、私どもの今までの生活では相談すべき立場にない。最近特に感じるのは、国民が余りに自分の主義主張に進み、我慢や顧みる力が無くなっている。それを痛切に感じる。
- ・相談したところで改善に至ることは無いと考えます。

問15 あなたは、困りごとに対する相談支援体制を充実させるには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

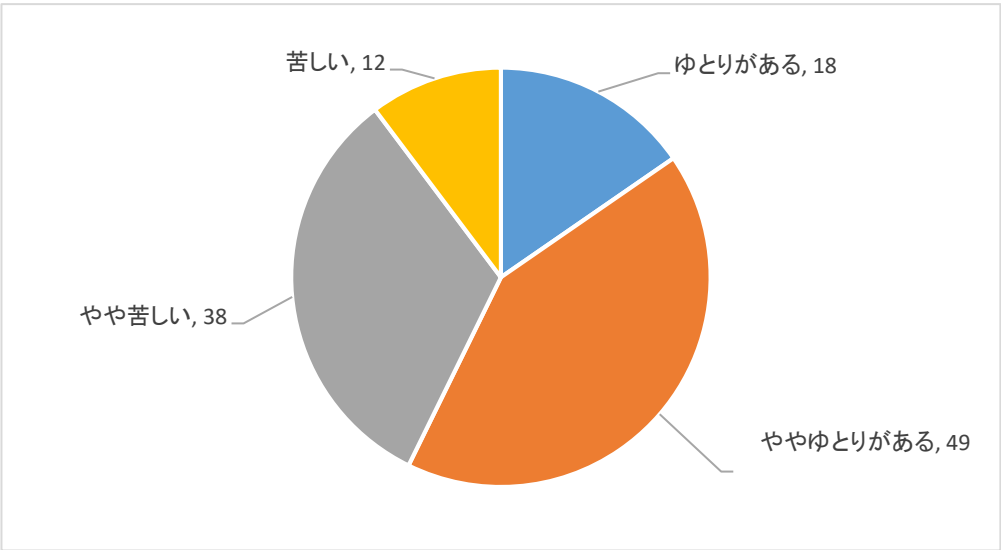


「困りごとが不明瞭で相談先が分からない場合でも相談できる仕組み」と回答した人が81人（69.2%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・現状の区の数で何かを始めようとしても無理。板橋57万人、少なくとも5万～10万人のサポーターを確保する事。区と職員、更に区民を総動員しないとダメだと思う。
- ・（以前電話で区役所にも申し入れましたが）板橋区の相談センターは予約日に電話が集中して、予約がとれないことが多いです。私の場合、司法書士に相談したかったのですが、予約がとれませんでした。ネットで四谷の全国司法書士会に相談できたのですが、板橋区で対応されない場合、他の相談所を紹介してあげると喜ばれると思います。無理に、板橋区の相談体制を充実させる必要はないと思います。
- ・解決出来るシステム
- ・現実的で具体的な解決方法をきちんと提示してくれること。
- ・どんな物が解決可能か具体的に示して欲しい。行政で出来ない事が明確なら他でなんとかしようと思えば良い。
- ・電話をして良かったと思える会話ができること。
- ・高い匿名精度の確保
- ・地域センターをもっと開放してください。高齢者、特定のサークル以外も気軽に利用できるようにしてください。
- ・メール相談など土日や時間外でも受け付けてくれたり、オンライン相談で直接行かなくても良いシステムの導入。

問16 あなたは、現在の生活をどのように感じていますか。

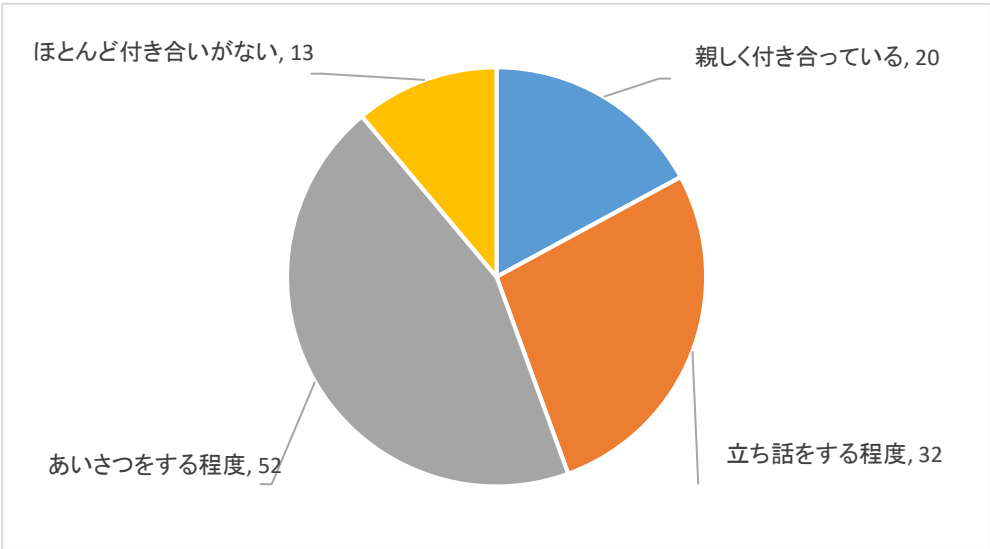


n=117

「ややゆとりがある」と回答した人が49人（41.9%）で最も多かった。

地域づくりについて

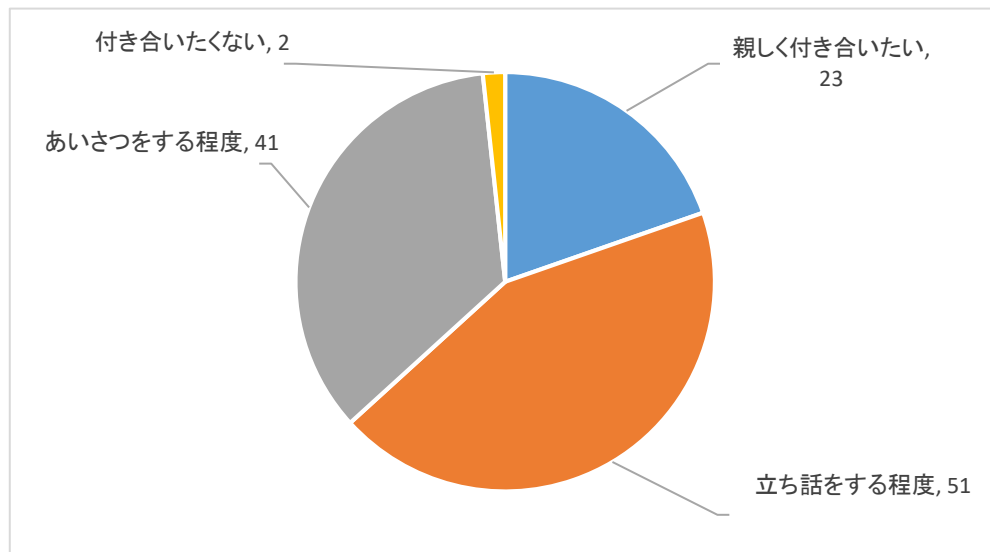
問17 あなたは現在、ご近所とどのような関わり方をしていますか。



n=117

「あいさつをする程度」と回答した人が52人(44.4%)で最も多かった。

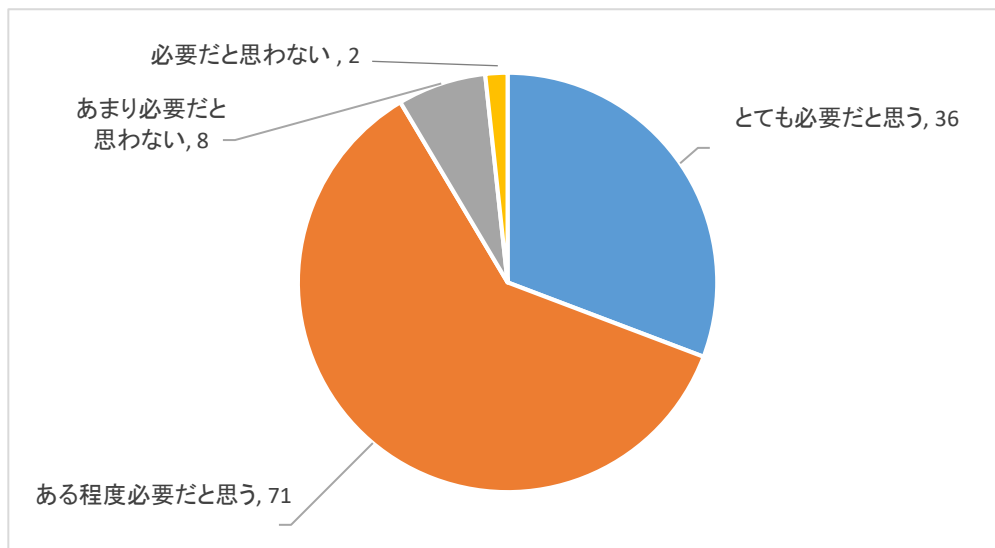
問18 あなたが望ましいと思う、ご近所との関わり方はどれですか。



n=117

「立ち話をする程度」と回答した人が51人(43.6%)で最も多かった。

問19 あなたは、地域とのつながりが必要だと思いますか。

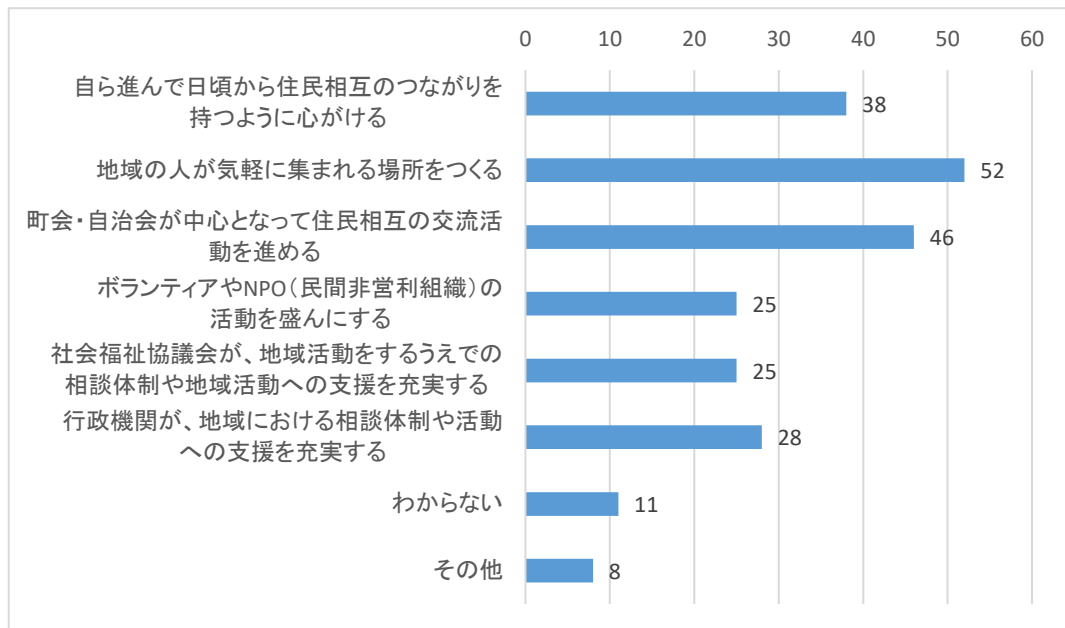


n=117

「ある程度必要だと思う」と回答した人が71人(60.7%)で最も多かった。

【問19で「とても必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」を回答した方へ】

問19-1 あなたは住民同士が自主的に支えあったり、助けあったりするためには、どのような取組みが必要だと思いますか。（複数回答可）



n=107

「地域の方が気軽に集まれる場所をつくる」と回答した人が52人(48.6%)で最も多かった。

《その他の回答》

・言葉使い、態度、人権、民主性などが独り歩きしている今。何が正しい、どちらに分があるか？単純に結論は出せない。制約と、注意や気にかかる事ばかりで本質、内容にたどり着けない。行政の大変さを考えると、答えが難しい。

・昔ながらの商店街の持続と復活。地域の職人、個人商店(大手チェーンではなく)の支援、復帰。マンションの建築はしない。

・マイノリティーの方々を暗黙のうちに排除傾向にある。出かけにくい時間の設定・案内の仕方が悪い。知る人ぞ知る？が。

・何かと言うと集合の方向性は違うと思うが、近隣の住民の顔と名前がわかる程度の付き合いがあった方が良い。

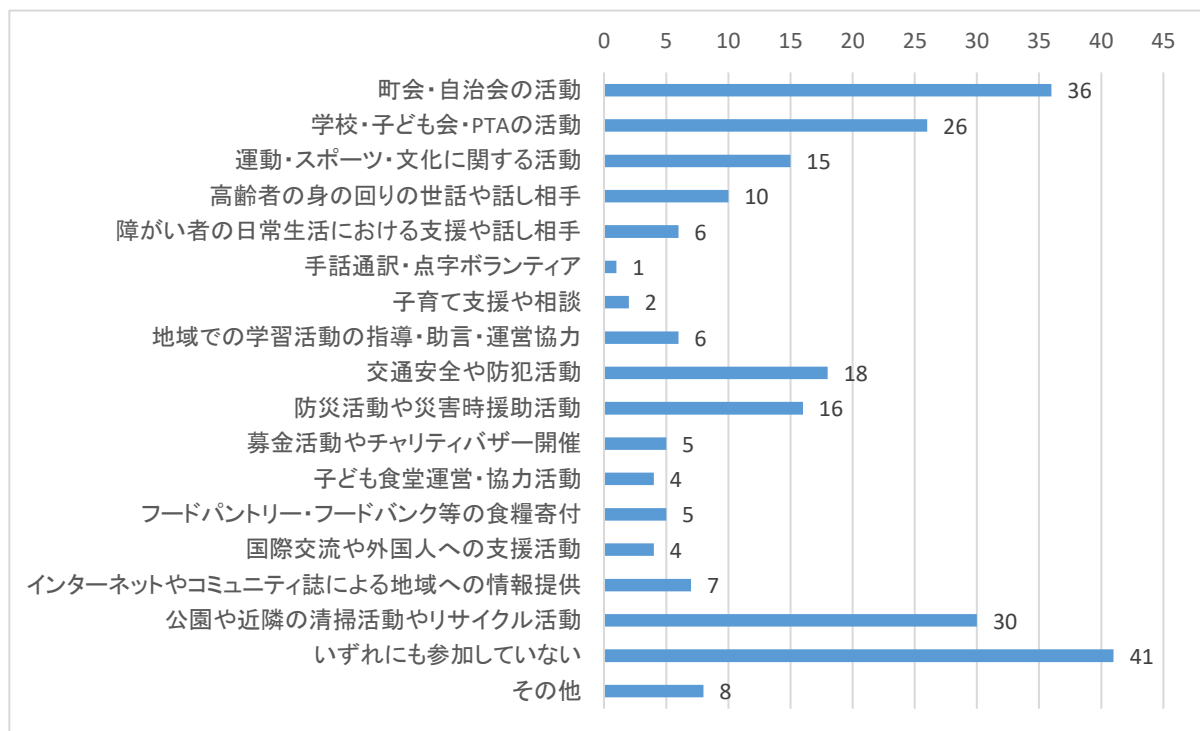
・地方のように閉鎖的にならないよう、法とは異なる変な風習ができないように適度な距離感を保つ。トラブルが発生した時の安全の担保が行政に欲しい。

・教育だと思う。子どもの頃からそういう行動をみたり、したりしていない人はずっと出来ないでいるように見受けられる。

・お祭りなどに気軽に参加(時期を夏だけでなく春や秋に開催するなど)できるようにしたいと思います。

・公民館を作ってください。町会ベースの地域交流活動では、取り残される人が出てきます。他の自治体のケースも参考にしてほしい。

問20 あなたは過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(複数回答可)



n=117

「いずれにも参加していない」と回答した人が41人(35.0%)で最も多かった。

《その他の回答》

・気が小さくて、臆病で、非常に細かい私には、参加する勇気がわからない。かつてのように、いろんな人がいて、誰でも好き勝手な言葉で、自由気ままに参加できるような世界ではない。みんな同じで、そつがなく、相手を傷つけないように、対応する。私には、非人間的、自己隠し、表面主義には参加する能力に欠ける。

・他県で2か所、日本語ボランティアをしています。板橋区の場合は、長期間の養成講座を受講する（しかも区の中心部に行かねばならない）など、活動へのハードルが高いです。

・地元ではありませんが、NPO活動への寄付などがあります。

・親子遊びサークルの手伝い

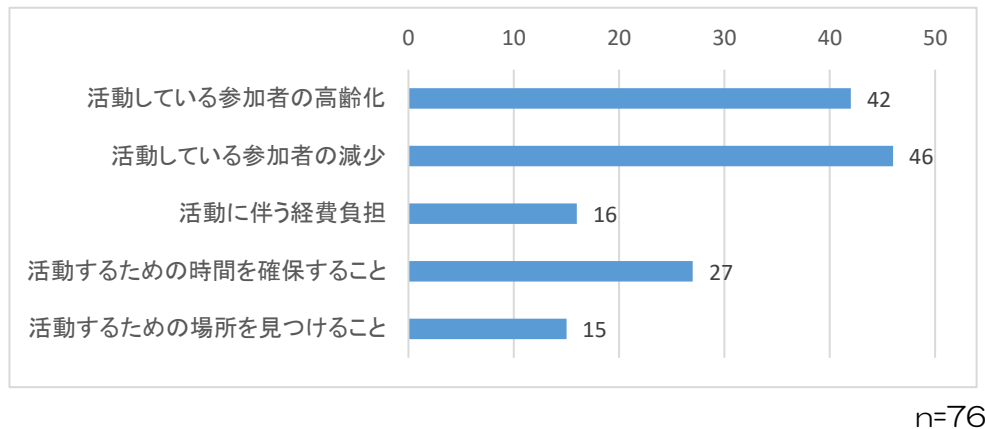
・地域サークル活動

・エコポリスセンターのボランティア

・野良ネコ手術

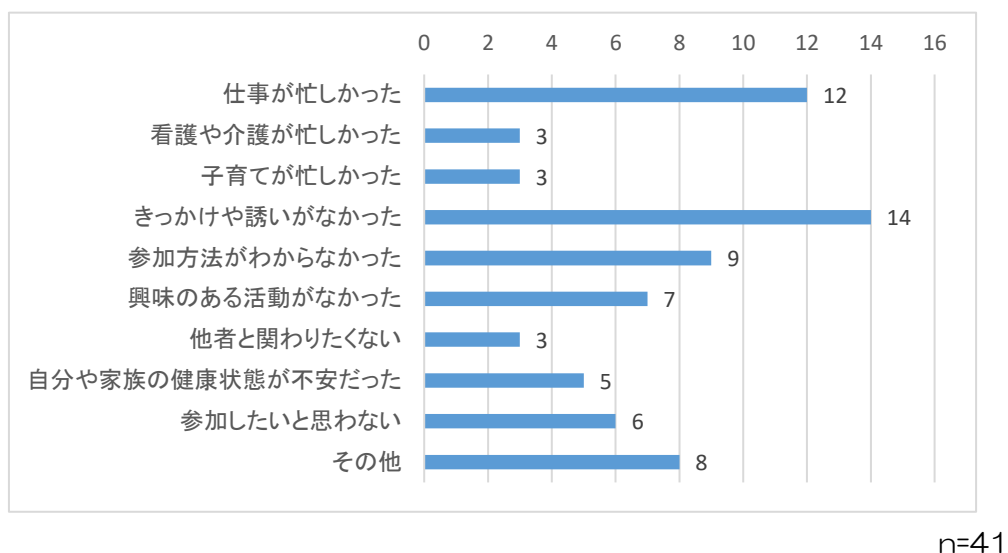
・衣服、文房具、タオル、カバンなどの寄付

【問20で「いずれにも参加していない」以外と回答した方へ】
 問20-1 活動を行う上での課題や負担に感じていることはどれですか。
 （複数回答可）



「活動している参加者の減少」と回答した人が46人(60.5%)で最も多かった。

【問20で「いずれにも参加していない」と回答した方へ】
 問20-2 あなたが参加しなかった理由はなんですか。（複数回答可）

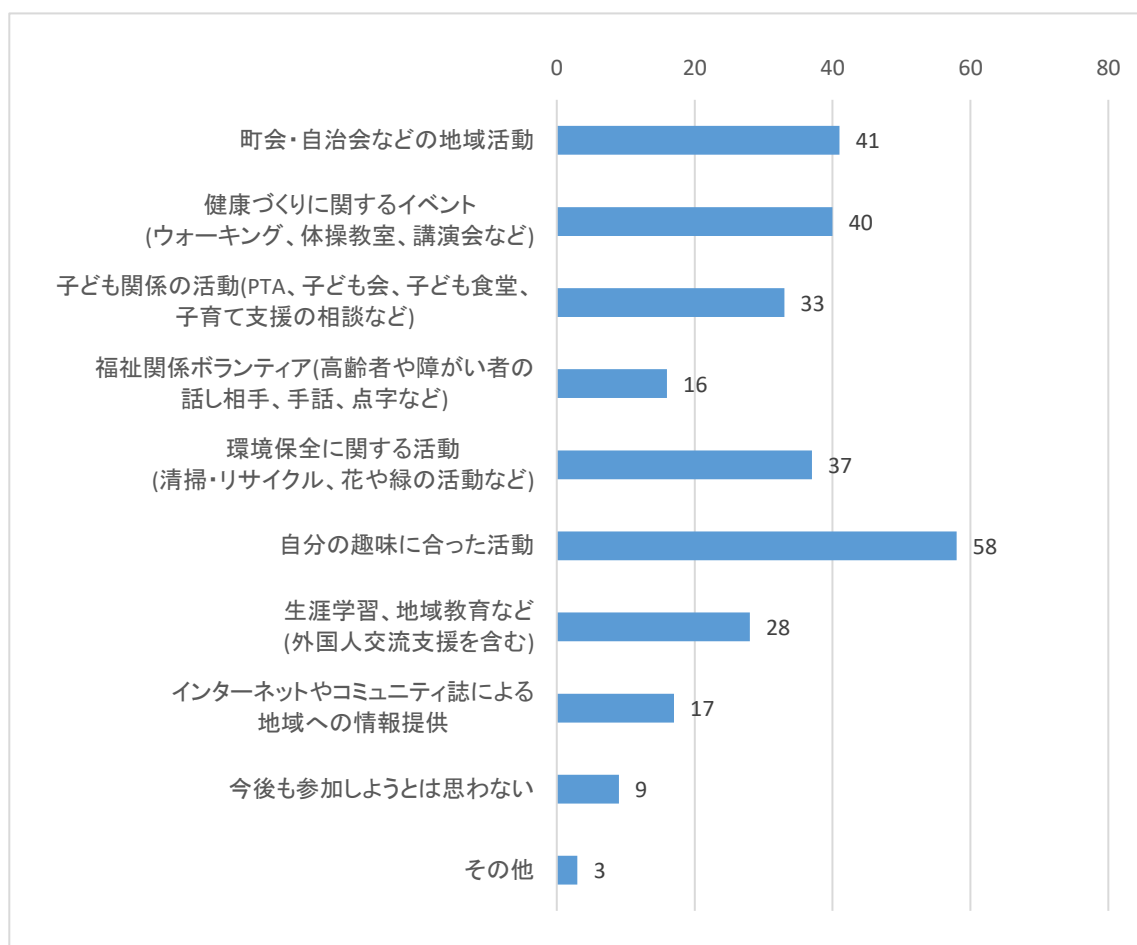


「きっかけや誘いがなかった」と回答した人が14人(34.1%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・居住する地域外において2つのボランティアに参加している為。
- ・活動自体知らなかった。
- ・健康上やりたくてもやれない状態になった。
- ・仕事としてやっていたから。
- ・顔も名前も知らない人との活動には抵抗がある。
- ・腰の調子がよろしくなく、出向くことが困難。
- ・健常者中心の設定の仕方・情報が不可。
- ・持病のため参加できない。

問21 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。（複数回答可）



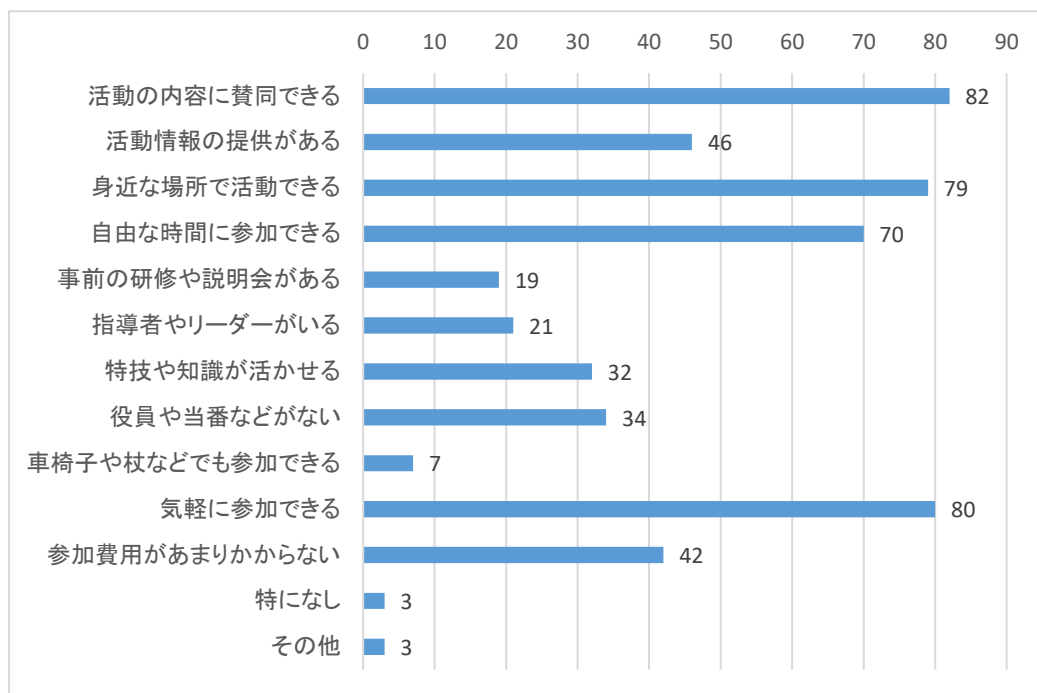
n=116
未回答者=1

「自分の趣味に合った活動」と回答した人が58人(50.0%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・野良ネコ手術
- ・支援を受ける側になりました。
- ・行動が困難

問22 あなたが活動へ参加するに当たって求めることは何ですか。（複数回答可）



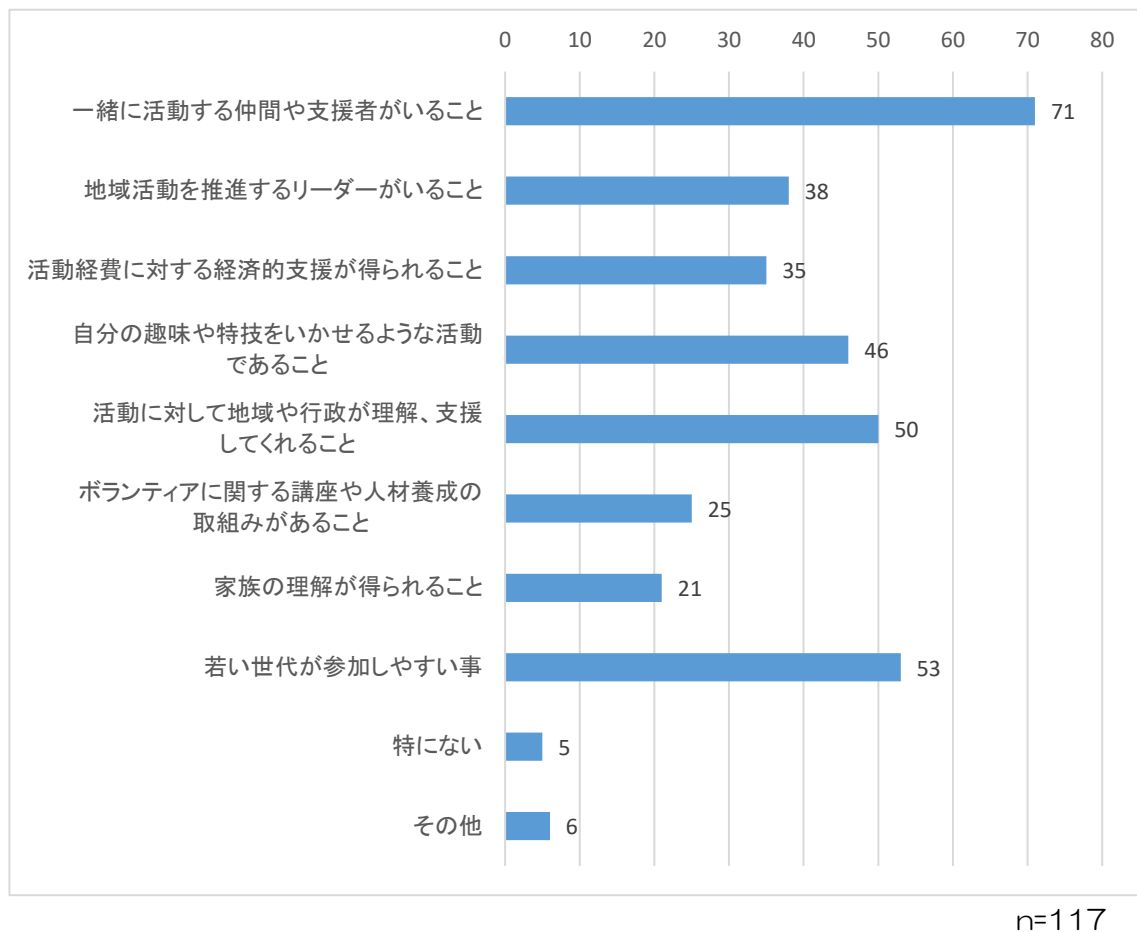
n=117

「活動の内容に賛同できる」と回答した人が82人(70.1%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・子どもの理解、子どもの預け場所
- ・口うるさい人がいないかどうか
- ・土日なら、参加可能です。

問23 今後、地域活動やボランティア活動を活性化していくためには何が必要だと思いますか。（複数回答可）

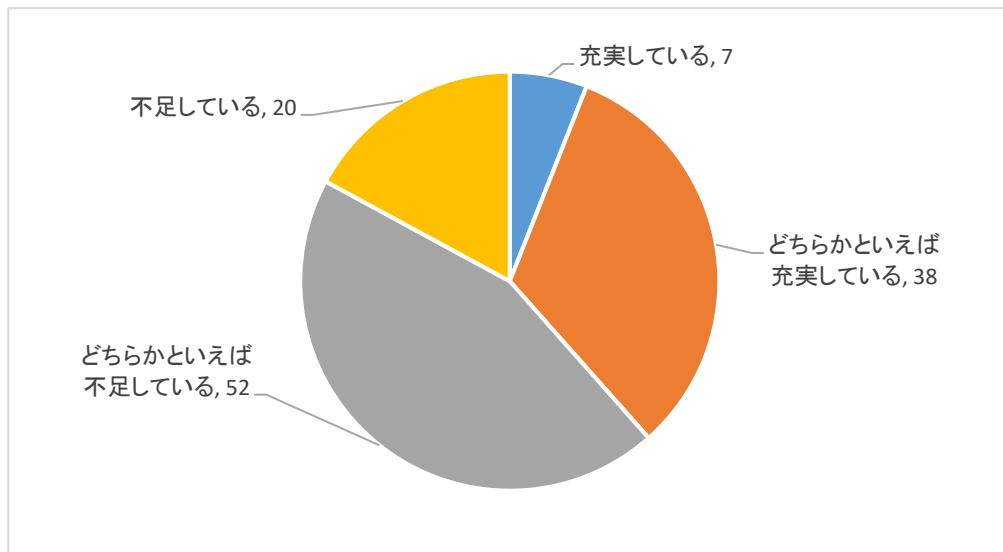


「一緒に活動する仲間や支援者がいること」と回答した人が71人(60.7%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・きっかけと面白い内容。
- ・必然性が無いと参加したくないと思う。参加が行政サービスを受ける条件であれば、参加する。
- ・地域活動並びに地域のボランティアについては、よくわかりません。
- ・適度に管理体制があること、情報があること、ハードルが高すぎない程度の目的が示されていること。
- ・ひとりで、今あるサークル等になかなか入りづらい。今あるボランティア活動の中に入りやすい環境を作って欲しい。
- ・ボランティアの為の時間の間に子どもや障がい者を預かって貰える事。

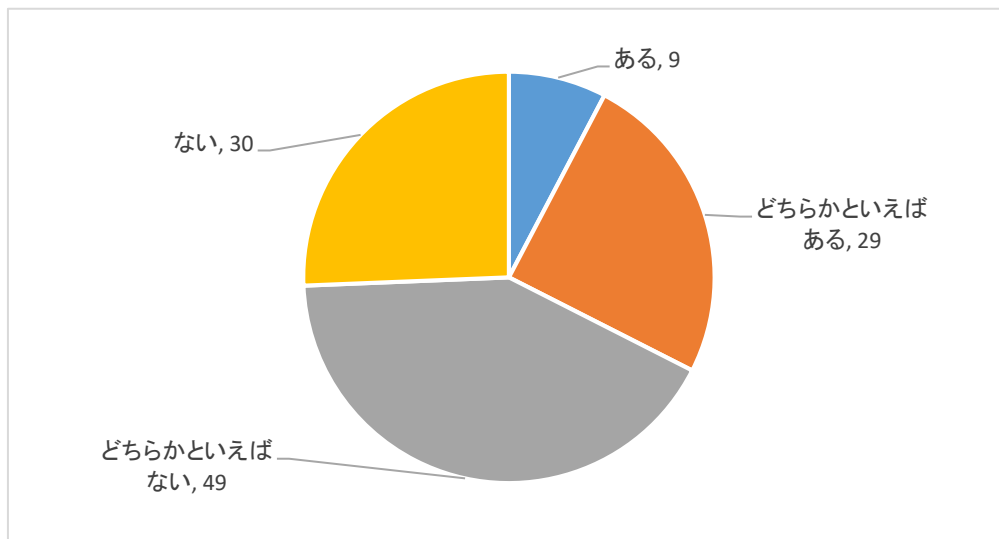
問24 板橋区の公共施設には、気軽に立ち寄れる休憩スペースが充実していると思いますか。



n=117

「どちらかといえば不足している」と回答した人が52人(44.4%)で最も多かった。

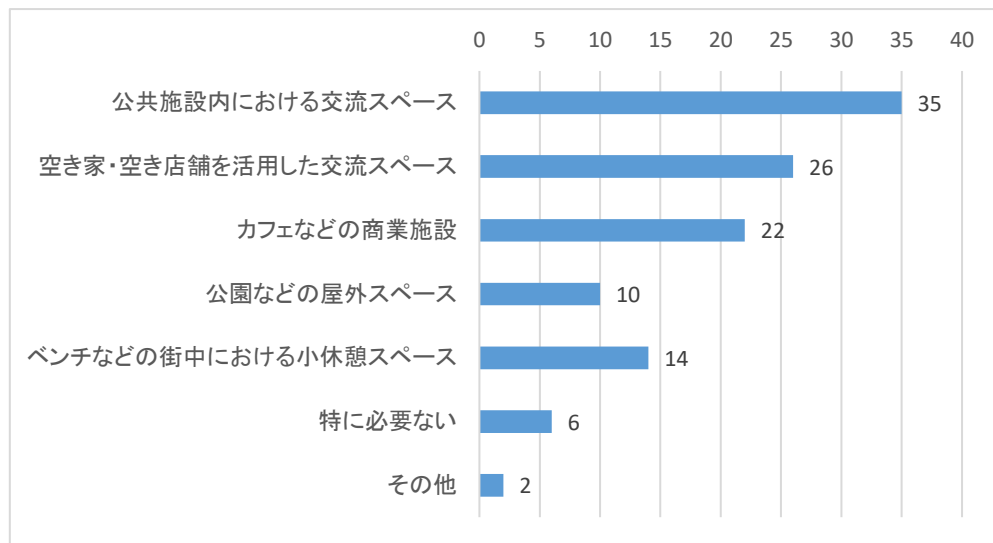
問25 あなたは、地域に気軽に立ち寄れる居場所があると思いますか。



n=117

「どちらかといえばない」と回答した人が49人(41.9%)で最も多かった。

問26 地域の交流の場として、どのような場所があると良いと思いますか。



n=115
未回答者=2

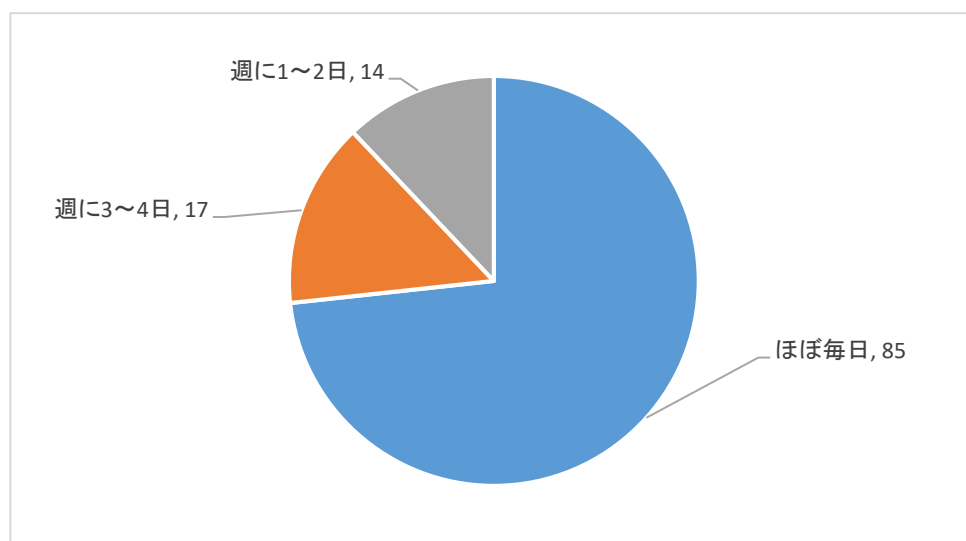
「公共施設内における交流スペース」と回答した人が35人(30.4%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・とにかく近くにあることが第一条件と考える。
- ・板橋区内にあまり魅力的な習い事がなく、わざわざ区外に出かけています。育児や教育で繋がるのが良いと思うのですが、板橋区にあまり魅力を感じません。

日常生活の課題について

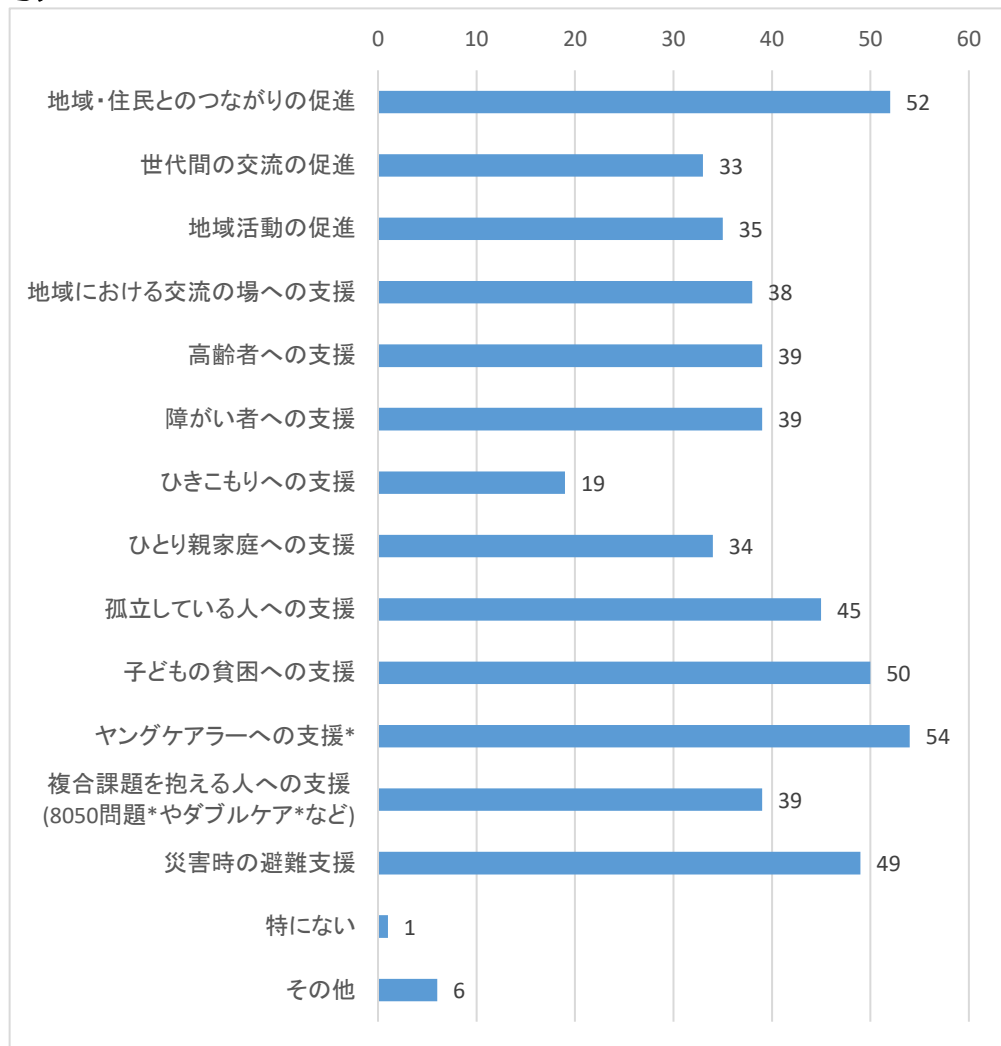
問27 あなたは、日常どのくらい外出していますか。（通勤・通学を含む）



n=116
未回答者=1

「ほぼ毎日」と回答した人が85人(73.3%)で最も多かった。

問28 地域や日常生活における優先課題だと思うことは何ですか。（複数回答可）



n=116
未回答者=1

*ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。

*8050問題：80代の親がひきこもりなどの問題を抱える50代の子どもの生活を支える中で、世帯が孤立化・困窮化するといった問題。

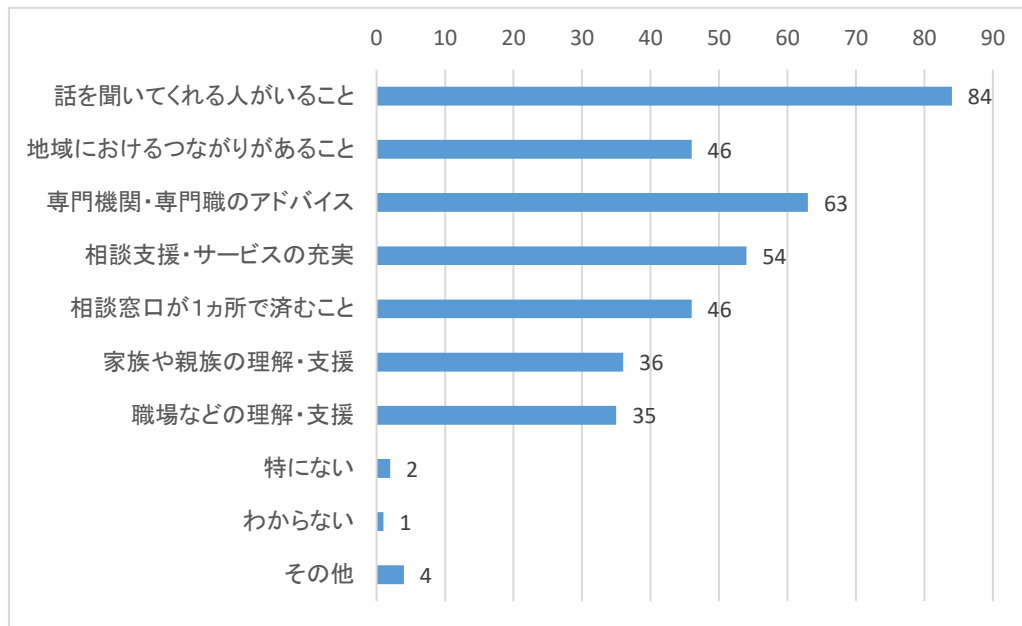
*ダブルケア：子育てと親や親族の介護が同時期に発生する状態のこと。

「ヤングケアラーへの支援」と回答した人が54人(46.6%)で最も多かった。

《その他の回答》

- ・減税と規制廃止と行政の支援ではなく自立マインドの促進
- ・顔をつなぐこと。公園で遊んでいる子どもに声をかけると不審者扱いされるような日常は異常。
- ・増え続ける外国人移住者への対応。主にマナー面で日本人と異なりトラブルの元となっている。人によっては法への知識も無いようで治安が心配。
- ・子育て世代、高齢者、若者、など、属性ごとの対策だけでなく、誰でも参加できる活動や立ち寄り場所を作ってください。住民全体を包括する視野を持ってください。
- ・税収のことを考えたら、もっと富裕層が住みたくなるような街を目指しても良いのではないのでしょうか。高所得者には優しくない街だと感じます。
- ・地域社会へどのようにしたら関心が向かうかその方策

問29 困りごとや悩みの解決において必要だと思うことは何ですか。
(複数回答可)



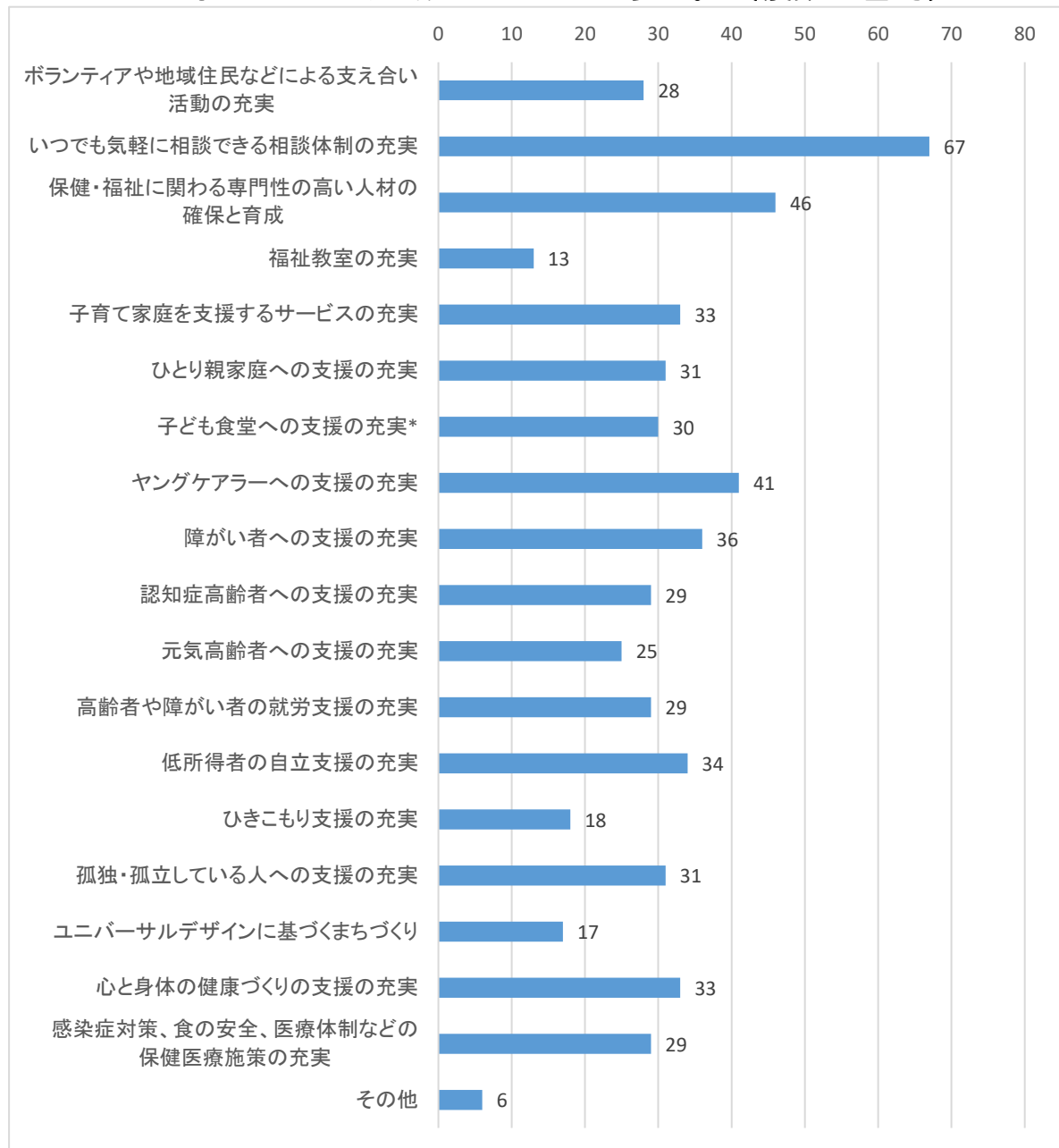
n=116
未回答者=1

「話を聞いてくれる人がいること」と回答した人が84人(72.4%)で最も多かった。

《その他の回答》

- 区議や都議が、もっと地域の声をしっかり聴いて具体的な提案や相談をうけていくこと。
- 特定の窓口を設けるだけでなく、オープンなスペースの充実も必要。公園、公民館、駅前広場など。誰もが気軽に利用できる場所が多ければ多いほど、孤立する人は減るはずです。
- どこに相談したら良いのか分からないので、もっと分かりやすくしてほしい。
- 第三者機関

問30 板橋区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいます。あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。（複数回答可）



n=116
未回答者=1

「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」と回答した人が67人(57.8%)で最も多かった。

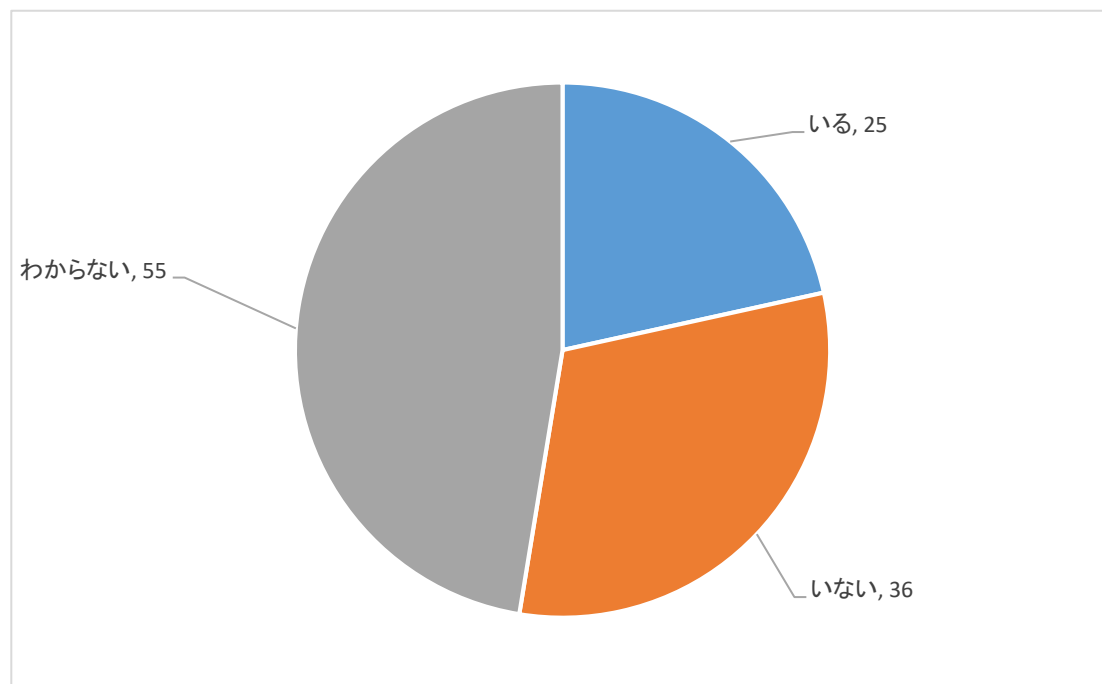
《その他の回答》

- ・二層協議体の活動を区自体がもっとアピールすべきと思う。
- ・減税と規制廃止と行政の支援ではなく自立マインドの促進
- ・子どもと親、または子どもだけが、参加したり学んだりして過ごす場所を作ること
- ・国保料の過剰な請求・取り立てを考え直してほしい。
- ・行政や支援団体は、支援の対象を属性で区切って見ているので、取りこぼしが多い。全ての区民を利する対策をしてほしい。公園の充実（樹木をむやみに切らない、水場の水を止めているのを再開する）、公民館の新設など、特定の層に偏らない対策をお願いします。NPOや民間に頼らずに区が音頭を取ってやってください。
- ・板橋区内に通わせたい学校がありません。教育移住を検討しています。

ソーシャル・インクルージョン*（社会的包摂）について

*ソーシャル・インクルージョン：「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。社会全体で包み支え合うことで、誰も排除されず、全ての人が社会に参画する機会を持つことです。

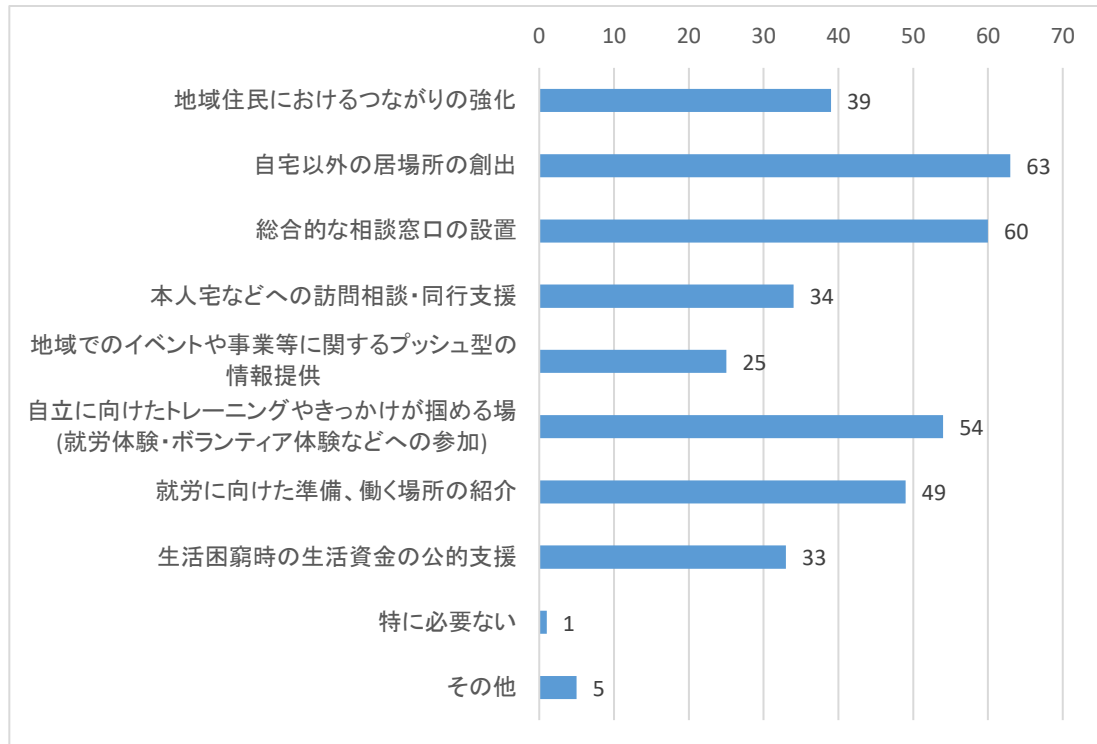
問31 あなたの周りに社会的に不利な立場にいる、または孤立していたり排除されている人はいますか（社会的排除）。（例）ひきこもり、ひとり親家庭、望まない非正規雇用者、路上生活者、頼る人がいない高齢者など



n=116
未回答者=1

「わからない」と回答した人が55人(47.4%)で最も多かった。

問32 ソーシャル・インクルージョンを推進するために、社会的排除の状態にある方への支援としてどのような取り組みが必要だと思いますか。
(複数回答可)



n=116
未回答者=1

「自宅以外の居場所の創出」と回答した人が63人(54.3%)で最も多かった。

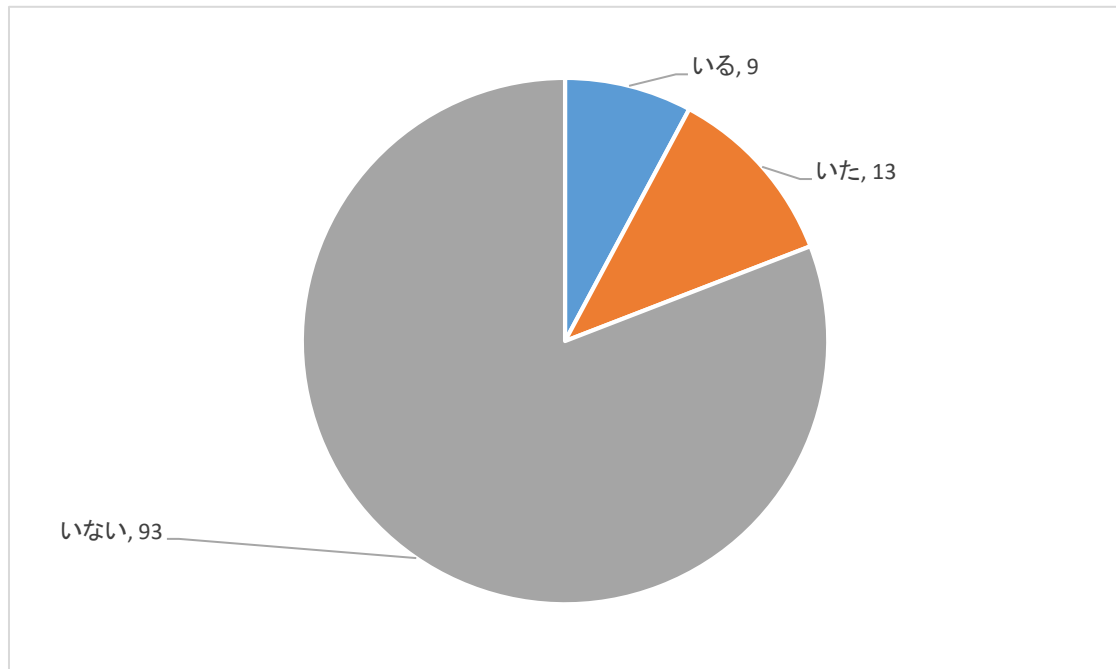
《その他の回答》

- ・何もせずに自立を促すこと
- ・そこへ行けば、ある程度安心・快適のうちに、特定の何かが得られるという前提（情報）があると、時間があれば行くことになるのではと思います。いつ、どこで開催するというのは、知ることが出来なかったり、調べるのが大変だったりもします。ただ、漫然と集まって、「さあ交流してください」というのは、無理に近く、人はある程度課題があって、それに取り組む中で関わり合うのが、一番発展しやすい気がします。
- ・本人にその自覚がなければ支援できない。そのような状況の人を^ス捌いた^ス事の方が難しいのでは
- ・相談窓口を設けても、係の人に専門知識が乏しかったり、異動によって支援の継続性が失われたりすれば意味がない。相談窓口を設ければいいというものではない。社会全体が寛容でなければ、相談窓口や居場所はただの一時避難所、囲い込みの場所でしかなくなる。区全体として、寛容さや包括性を促すことを考えてほしい。シティプロモーションでも特定の年齢層や属性の人しか紹介されていない。意図的ではないにせよ、排除の空気はそういうところからも生じる。
- ・ソーシャルインクルージョンの意味がわからない。

ひきこもりについて

問33 あなたの世帯に、ひきこもり状態*にある（あった）方はいますか。

*ひきこもり状態：様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態



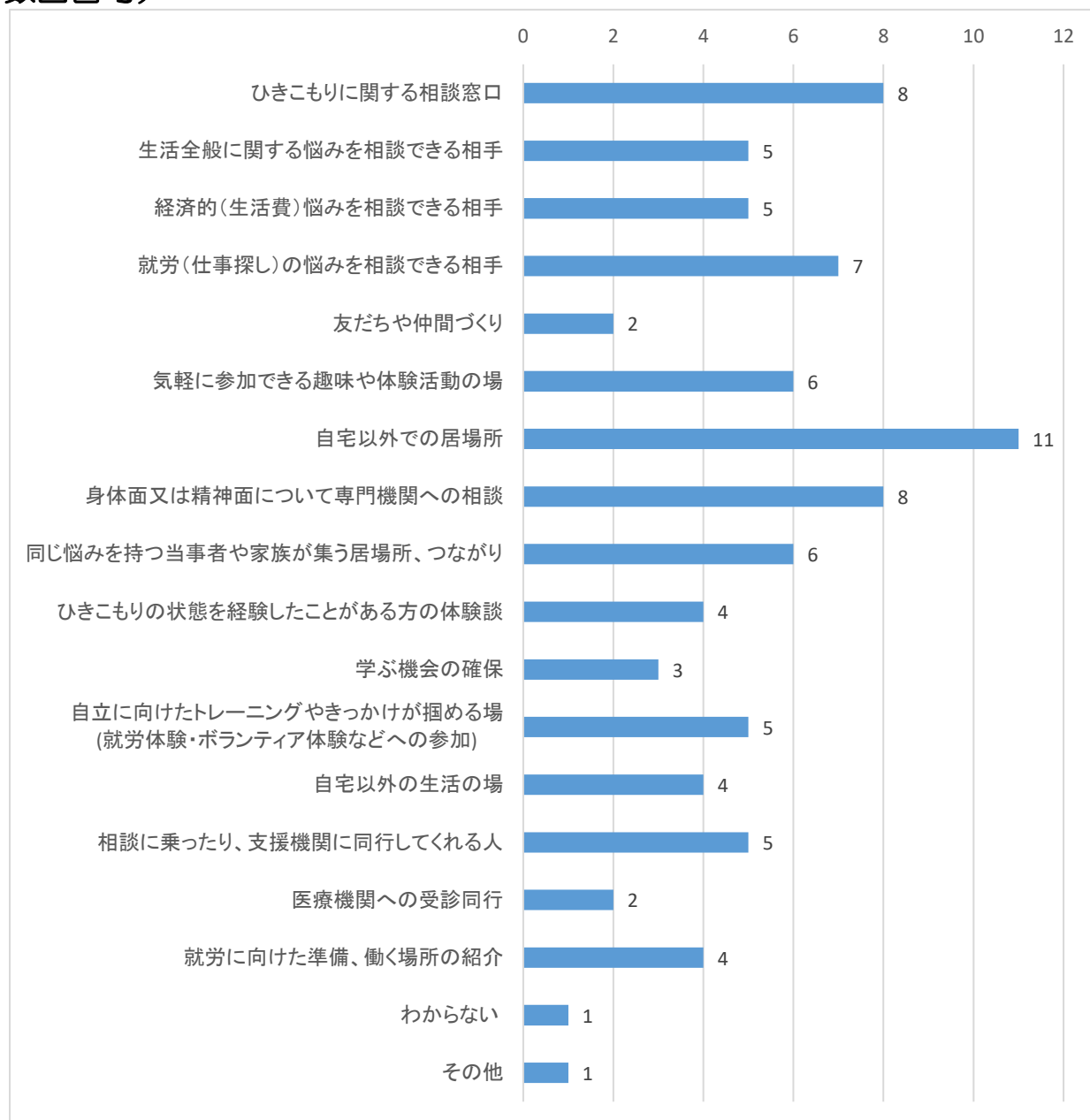
n=115
未回答者=2

「いない」と回答した人が93人(80.1%)で最も多かった。

【問33で「いる」、「いた」を回答した方へ】

※「いた」を回答した方…ひきこもり状態にあった方は、当時の状況について、お答えください。

問33-1 ひきこもり状態にある方について、ひきこもりの状態を変えるために、必要であったり、役に立つと思うものをお答えください。（複数回答可）



n=22

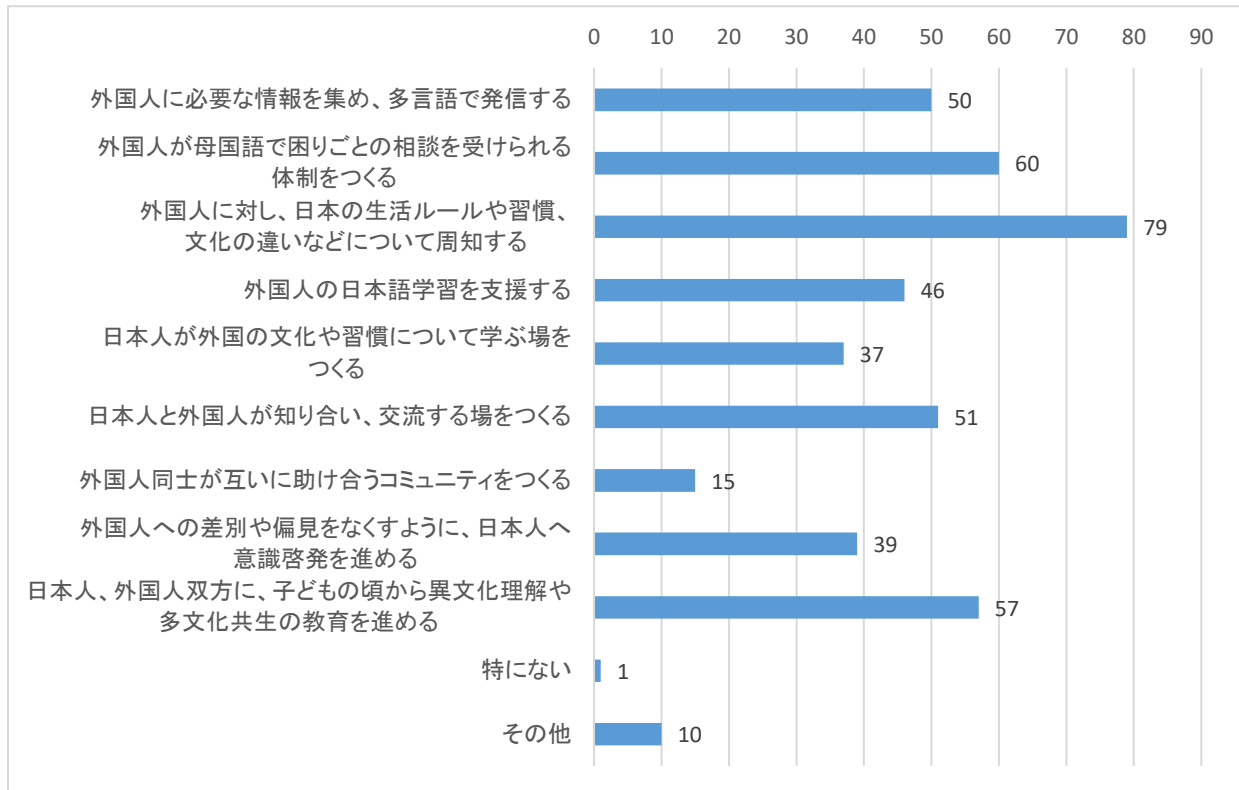
「自宅以外での居場所」と回答した人が11人(50.0%)で最も多かった。

《その他の回答》

・板橋区に20年くらい住んでいる間、ボランティア等やってみたが、地域になじんでいる感じがなく、ひきこもり状態のことが多かった。短い間だが他県に転居し、公民館の講座をあれこれ受けて、たまたま自分に合うものがあったことが、脱け出すきっかけになった。そこからまた板橋区に帰ってきたら、そういうきっかけが地域にまるでなく、またひきこもり気味になってしまった。

外国人との共生について

問34 日本人の区民と外国人の区民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、行政に求めることをお答えください。（複数回答可）



n=115
未回答者=2

「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」と回答した人が79人(68.7%)で最も多かった。

《その他の回答》

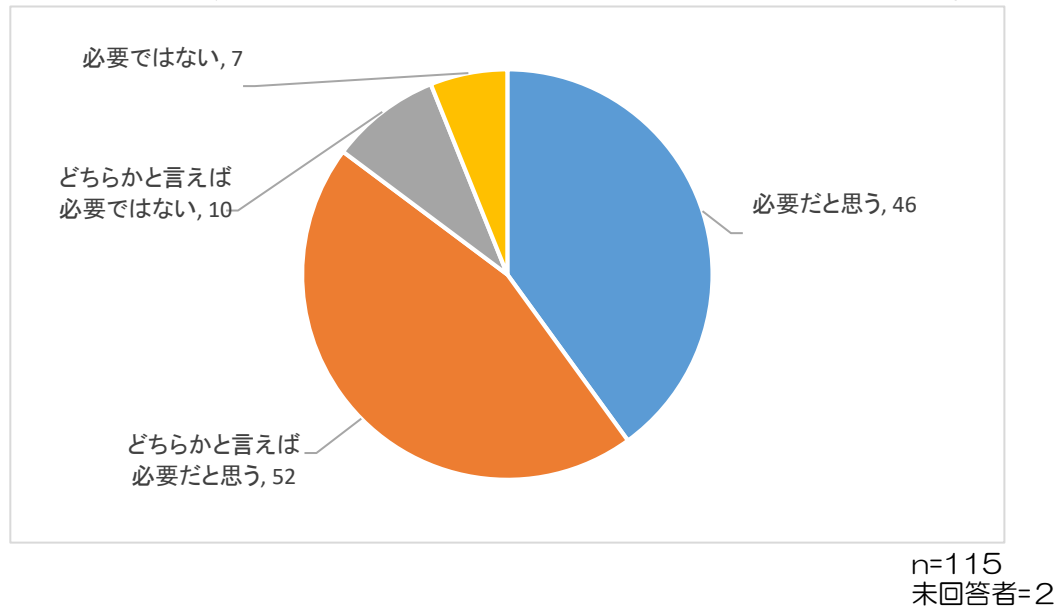
- ・国として、明確な移民政策を進めるように強力に働きかける。日本人の大半は、外国人を利用、使い捨てにしているように、諸外国は見ている。
- ・日本の生活習慣を理解しようとする努力が見受けられない。日本人と同様生活保護を安易に受けず、努力する姿勢を理解させる日本語の習得支援の強化。
- ・コンビニや工事現場など、外国人の労働者の方々が本当に増えたなと感じています。差別や偏見は持たないようにしているつもりですが、治安面にやはり不安があります。具体的にどうしたらよいかはわからないのですが、区で何かできる対策があれば取ってほしいと思います。
- ・外国語を学べる場の支援が欲しい。
- ・外国人を迎え入れるのであれば、低賃金の労働者ではなく、高度人材を迎え入れたほうが、治安の安定や経済活性化等、将来的に日本の国益になると思います。ベトナム人や中国人の犯罪が毎日のように報道されていますが、低賃金で迎え入れた外国人は、行き詰まる場合も多く、犯罪に手を染めがちです。行政には、入国時や移住時の入口管理（他国のように高額なデポジットが無いと移住できない等）や、犯罪を犯した外国人に対して母国へ強制送還をする等、日本なので日本人が安心して暮らせるようしっかりした対応をおこなって欲しいです。
- ・これ以上の外国人受け入れは中止して欲しい。日本人の安全な生活が脅かされている。

・少子高齢化により、もうそんな事を言っていられない状況なのでしょうが、他国の状況などをニュースなどで拝見すると、外国人をどんどん受け入れると犯罪率が高くなるようです。受け入れるからには、生活支援をしっかりと行うなど、犯罪を起こさせないような仕組みを整えることが必要だと思う。

・当該設問は今、国内で生活している外国人の人達への対応のように感じられる。大切な事は入国時のレクチャーだと思います。一定期間、入国時に行政がしっかりと国民性、国の成り立ち等、レクチャーすることが大切だと思います。

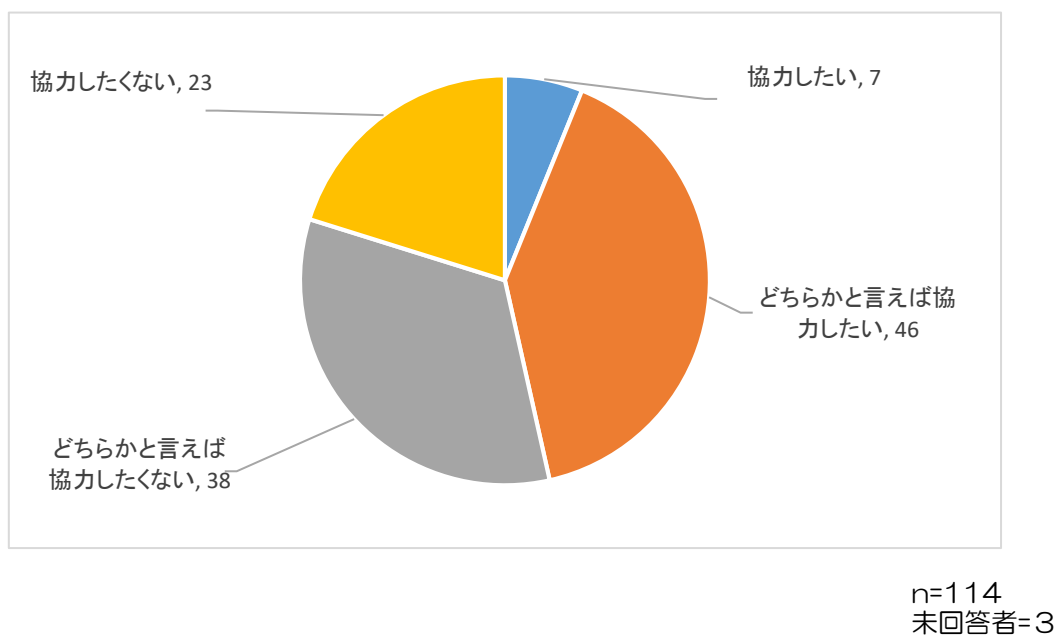
再犯防止に向けた取組みについて

問35 あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。



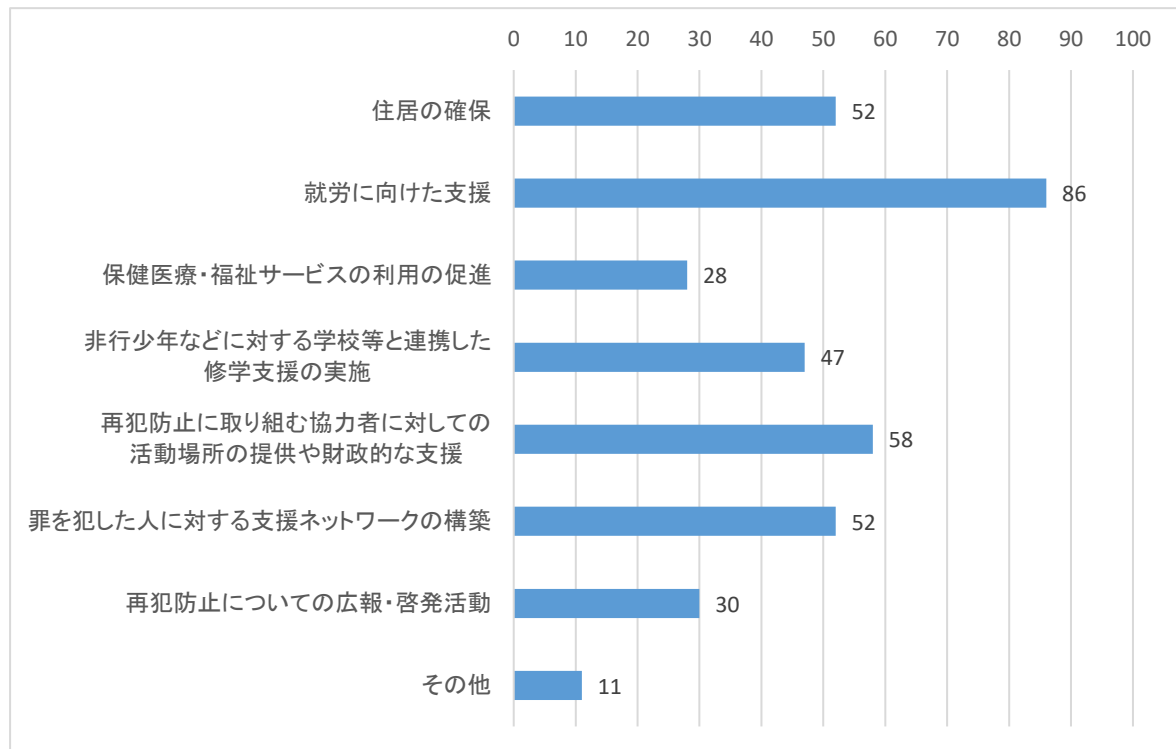
「どちらかと言えば必要だと思う」と回答した人が52人(45.2%)で最も多かった。

問36 あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。



「どちらかと言えば協力したい」と回答した人が46人(40.4%)で最も多かった。

問37 罪を犯した人が、出所後、再び罪を犯さないようにするために、区はどのような取組みを行っていくことが必要だと思いますか。（複数回答可）



n=114
未回答者=3

「就労に向けた支援」と回答した人が86人(75.4%)で最も多かった。

《その他の回答》

・死刑のあるわが国では、犯罪に対して、自分と犯罪者が違うと考える。生まれつきか、途中から何らかの経緯で、自分も同じような宿命になると考える事が出来るように、国を挙げ、区を挙げて教育する以外ないです。

・公立学校、障がい者施設の防犯

・再び罪を犯す可能性があるのなら排除すべき

・同じ罪を繰り返す傾向があるので、抑止力の為、罪の回数に応じた累進刑罰が必要だと思います。

・内省させ、勉強させ、理解させ、努力させ、良い人になってもらう。

・罪の内容により一概に言えない。被害者の気持ちを考えると、加害者より被害者に重点を置いた政策をすべきだ。

・犯罪を犯す前の支援がもっと必要だと思う。きっとSOSを発信しているのではと感じます。が、ひきこもり人口がこれだけ増えていると言う事は、そういった方を救済するしっかりとした仕組み作りがなされていないのではと感じる。

・罪を犯した人に対する偏見を無くす啓蒙教育、特に公立学校において必要かと。

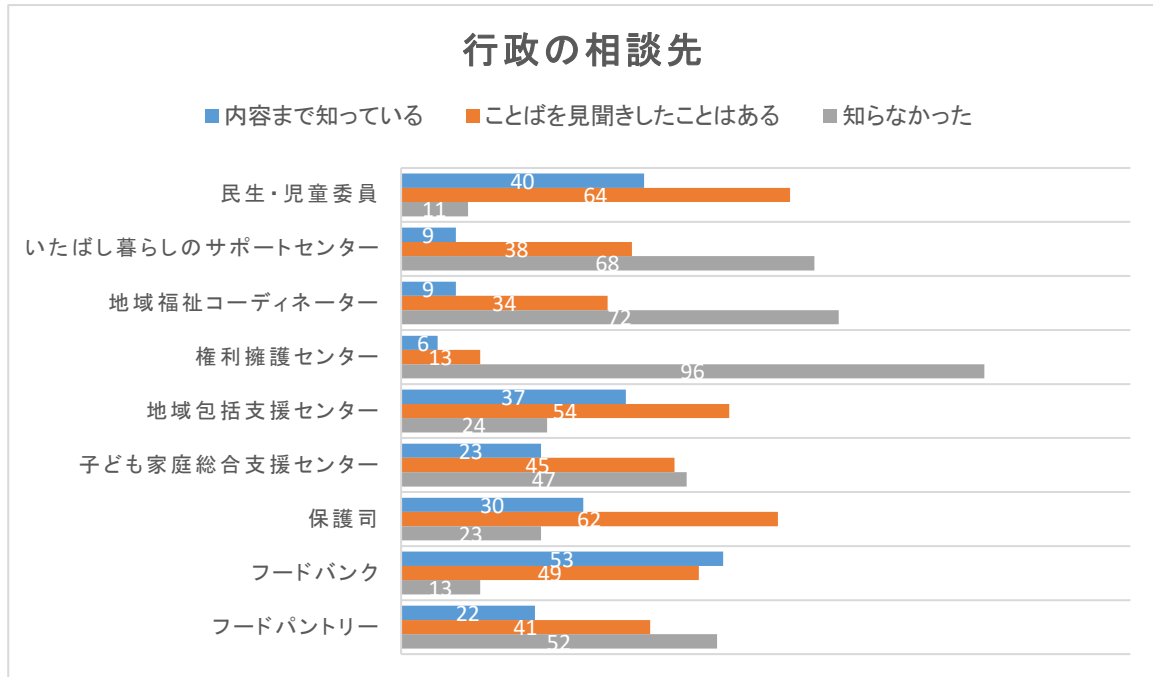
・住居・就労の把握

・犯罪者がどこにいるのか、ちゃんと明らかにして欲しい。性犯罪者や子どもに犯罪をした人間は再犯が多いので、2度と雇用されないような仕組みを望みます。社会復帰支援は自治体ができるべきことではないと思います。

・ただ罪を犯した人にも事情は様々、一括りに罪を犯した人で回答は難しい。罪を犯した人の中には社会にまったくなじめない不適合の人達もいます。

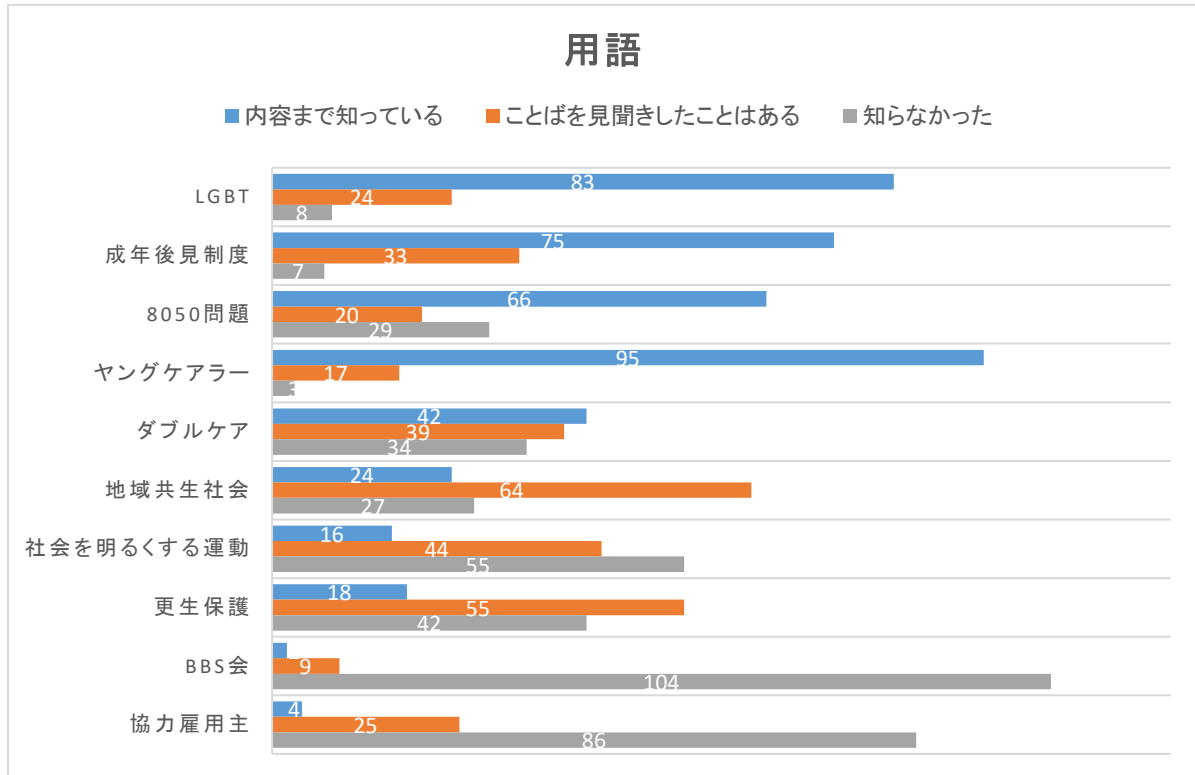
行政の相談先や福祉等の関連用語について

問38 あなたは、下記に示す板橋区の相談支援窓口や、福祉・保健に関連のある用語を知っていますか。



n=115
未回答者=2

行政の相談先で「内容まで知っている」と回答した人が最も多かったのは、「フードバンク」で53人(46.1%)であった。



n=115
未回答者=2

用語で「内容まで知っている」と回答した人が最も多かったのは、「ヤングケアラー」で95人(82.6%)であった。

問39 最後に、いままでお伺いしたことの他に、地域保健福祉に関するご意見・ご要望・ご感想などがありましたらお聞かせください。

まだまだわからないこと、初めて聞くことがありました。
助けてと言えない人をどう救えるか？ コミュニケーションが取りづらい人とどうかかわっていくか？ 役所のなかには異動等で区民とせっきく出来た人間関係がまた1からという場面がどうしても出てきてしまうことを目にします。 専門分野は出来れば固定されていくとより良い関係性が繋がっていかれるのではないかと。 理想ではありますが特に孤立してしまう人には必要ではないか？と思うことがあります。
福祉支援などの手続き場所がかわったりすると、とても不安。また知らない新たな場所へ行かねばならないと不安。
突飛ですが、カスタマーハラスメントがやっと動き出そうとしているところ。前途は遠方です。職員諸氏に努力と、寛容と忍耐を求めすぎている我々区、市民。何と言ったら解決に近づくのか。犯罪、極端、生きていたくない人、我慢が出来ない人等々。中流、中級が減って、高所得者と、貧困者が増えている。愚直に、微々たる進みで行くのが一番です。
福祉に関する情報が区民に知らされておらず、情報不足な区民が多いように思う。区民が情報を得れるようなしくみ、方法を考えて欲しい。
私自身に知識が足りないの意見はないのですが、知識が足りてないことが問題だと思っています。周知が足りない、と申し上げるのは簡単ですが、多分問題は各自にあるんだと思います。他人事を自分事に考えない、というか、身に迫らないと自分事にならない。どうしたものか…
民間企業、住民ボランティアありきの福祉ではなく、行政主導であることを望みます。
そもそも「おとしより」「貧困」「孤独」「外国人」というカテゴリにくられるのを当該者はいやがるの分かっていますかね？ 認知症高齢者は自分を若いと思ってるし、貧しいのは他人に知られたくないし、束縛されずひとりであるのも自由だし、海外の人も自分の意思で日本にいる。今回出てきた中で早急にどうにかしなきゃな単語はヤングケアラーかなと思いました。
ソーシャル・インクルージョンという言葉を知りました。活動に感謝します。欲している支援は多様なので、考えていきたいです。
税金、各種保険料は滞りなくお支払いしていますが、民生委員が訪ねてくれたことがある程度で、地域保健福祉と接点があるとは思えない。
年寄りがヒステリックになりやすい社会は間違っていると思う。犯罪を意識しすぎるが故の他人への介入を拒む社会は地域のまとまりをなくし、他人を排除する風潮になっている。赤塚四丁目のように誰彼構わず挨拶をする取り組みは意外といいと思っている。
障がい児を預かってくれる施設や居場所が少ないし、周囲に無い。デイやショートスティ、就労等あまりに少なく将来が心配でならない。
私が子どもだった頃に比べ、急激に外国人が増え、治安の面や日本らしさが失われないかととても心配しています。日本が人口減少傾向だからといって、ただ外国人を増やし人口を維持するというのは安易な考えだと思います。低賃金で働いてもらうことを前提にした外国人の入国は、報道でも毎日その犯罪が取り上げられるようにトラブルの元となりがちだと思います。様々な事情から、外国人を移住者として入れざるを得ないのであれば、他国のように、日本のレベルアップにつながるような高度人材、多額の資産のある方、高収入がある方など入れていただけるように行政には方針転換をして欲しいです。板橋区にほど近い川口市や蕨市の状況を見ているととても心配になります。
いつもありがとうございます。日本（人）は自己責任とか自助を重視しているように感じます。インフラとか制度の充実だけでは解決するとは思えないです。国全体で日本、日本人の意識改革が必要だと思います。

保健福祉用語は、このアンケートからもわかるようにカタカナ英語が多い。単にほかしたいのか箔を付けたいのか。日本語で補足説明等無駄で、当事者を遠ざけることになっていると思う。
いざ相談したいことがあってもどの部署にに相談してよいかわからないので、代表電話番号から適切な部署に案内可能な人材育成の構築。
子どもの精神文化が貧困なのが気になります。ただ同世代で過ごす時間が多い保育園・幼稚園なども、一定の意味があるでしょうが、昔のように親戚のお兄ちゃんお姉ちゃん、近所のおばあちゃん・おじいちゃんといった人から、日常の中で社会や文化または人としての在り方を、良い意味で教わる機会が大事だと思っています。
今後、ますます高齢者が増加するが、問題は若者をより世界レベルに仕事ができるように教育すべきで、地域保健福祉を高齢者に重点を置くと、今後の政策に限りが見える。
元気な高齢者の方の就労支援にも力を入れていただきたい。
ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いが判らない人が多いと思う。福祉のイメージは子ども、高齢、外国籍の方という人が多く、その中に障がい者が入っていない人が多いと思う。
誰が、どの組織が、誰を使って、何を行っているのか、漠然とし過ぎて良く分からなかった。アンケートの内容は、民生児童委員が要支援者を探し出して行う事なのでしょうか。広報いたばしはよく読みますが、地域保健福祉、初めて聞きました。
本当に助けるべき方を優先して助ける&問題解決でもいいかと思います。例えば、ひとり親世帯で困窮している家庭を救うとの一点張りでも良いかと思います。アンケートの設問内容からやりたいこと、やatteringことが多く見えてましたが、行き届いてるかは実感していません。 上述は、アンケート設問内容のような素晴らしい行動に参加していない私からの感想ですので、あまり参考価値がないとも感じました。その理由は、私は月曜から金曜までのサラリーマンの仕事、子育てで手一杯で、悩むより（周りに頼るより）自ら解決して進めていますから。
インフレで、生活は益々苦しくなります。なので、年金の少ない老人、収入の少ない子育て世帯への支援を、よろしくお願いいたします。花火や、区民まつりやっている場合ではないです。
家族間で介護、終活問題を話し合う手助けをしてくれる施設や相談員がいれば良いと思う。家族だけで話し合ってこじれる前から介入してもらいたい。全く子どもの話を聞き入れてくれない老親もいるため。
地域住民が(町会/自治会活動含む)無料で使用出来る場所が無い。 地域センターなど数カ所はあるが全て有償である。 但し、板橋総合ボランティアセンターは、町会/自治会活動であっても無料で使用出来る町会/自治会がある。 板橋区内の全ての町会/自治会が登録を許されれば、ボランティアセンターだけは無料で使用できるのかも知れないが、通常町会/自治会活動で地域センターを使用する場合は必ず有償となっている。 何かしらの理由があるのかも知れないが、これでは町会/自治会活動を通じて防災防犯、青少年健全育成、高齢者対応などの一端を依頼しているにも関わらず、費用面に於ける公平性が保たれていない。
どんな事に取り組んでいるのかもっと簡単に伝わったらいなと思います。 地域保健福祉が何をしているかを答えられない人は沢山居ると思います。
スタッフ数の充実、力仕事に秀でてる方々の確保。

中心部から離れたところに住んでいます。公共施設が近隣に少なく、区報を入手するのも困難です。地域センターすらかなり遠くにあります。集合住宅に住んでいるので、町会の集会所は利用できません。地域センターも特定のサークルへ部屋を借し出すことと、高齢者の相談に乗ることが主たる目的のようで、私のような中年にはとっかかりがありません。地域センター独自で講座やイベントをしないのはおかしいです。区の予算で運営されているのに、特定の住民に偏った利用状況なのも納得がいかない。図書館や郷土資料館で住民向けの講座を開催していますが、これらの施設は本来そういう目的に使われるのではないはず。幅広い層の住民が気軽に参加できる社会教育の場として、地域センターを開放するか、公民館を新設するかしてください。それが孤立孤独対策にもつながります。相談窓口ばかりたくさん設けても、NPOに支援をしても、地域の中にそういう社会教育や趣味の活動の場がなければ、意味がないです。誰一人取り残さないとか、住みたくなるまちだとか、空虚なスローガンだなといつも感じています。もっと近隣の自治体のケースを参考にしたい方いいと思います。

これから、高齢者が増えて、担い手が足りなくなる不安があり、自分が元気で生活できるように心がけている。

弱者救済は必要だと思うのですが、あまりにも高所得者に対する意識が無いことが設問からもわかって残念でした。益々板橋区からの転出を検討してしまいます。

子ども2人に障がいがあります。支援を受けるには、自分で調べて申請しないといけない。そうではなく、プッシュ型にして欲しい。

関心はあるが周辺の家庭環境が、どの様になっているか、困っているなら助けたい気持ちはあるが、現在は全くといっていいほど閉鎖的でわからない。広報紙などで板橋区はこういう状況だと知らせてほしい。私がわからないだけかも知れませんが。

行政に相談しても暗い気持ちでいつも帰宅する・・・と話す方がいらっしゃいます。

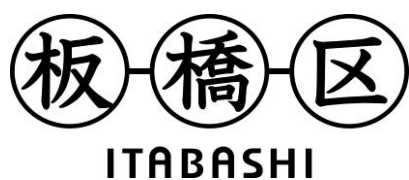
今回のアンケート（設問）はそうあるべきと思うが、個人としては関わることにためらうと感じられるような内容が多かったですね。

現在、地域ごとにささえあい会議が定期的に行われているが、成果が出ているとは思われない。何かやっているふりの活動は見直した方がよい。

行政の相談先を具体的に、内容までしっかりと把握していくように、情報をさらに区民（都民）に浸透させることが必要かと思います。

登校拒否の子に板橋三中はとても良いシステムを行っていると同じです。全ての学校がこれを取り入れて、子どもが教室に戻れるようになると理想だと思うのですが。

つながりがわかりやすい地域と行政の輪を作り、みんなが生活しやすい場所になればよいと思います。



いたばし・タウンモニター いたばし・eモニター 令和6年度 第4回アンケート結果報告書
板橋区保健福祉計画について

令和6年 10月発行

刊行物番号
R06-79